明治四十二年五月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百三十四號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百參拾四號目次

大日本婦人衞生會

六月例會通知

來る六月五日（第一土曜日）午後一時半より神田區一ツ橋通り女子職業學校內に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一　身體及其保護（手と足）　ドクトル　富士川游君

一　脊髓の話　醫學士　久野正太郎君

明治四十二年五月

私立大日本婦人衞生會

改選投票結果

本會會長、副會長、幹事及び評議員の選擧は、過日開票の結果、凡て從前の通りに決定相成候間、茲に之を發表す

但し評議員穗積歌子は不得止事情の爲め固辭せられたるに就き役員會に於て之が補缺推薦をなす事となれり

明治四十二年五月

私立大日本婦人衞生會

私立大日本婦人衞生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをして足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衞生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〱衞生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら務むべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相謀て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衞生の事に至りては更に注意を惹かざるもの、如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衞生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衞生上諸般の談義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を雜記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに益すあらんとす玆に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衞生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衞生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族稱住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を設き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を設く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月、總會に於て會員の投票を以てこれを選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に囑託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故あ る時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要の事件を評議す書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分委員を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時評議員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　會は總會集會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は每年三月之を開く若しくは必要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衞生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會へ場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を受くるものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは寄附物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を添册に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證を費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲にて本會事務所々在の郵便局（麴町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地

私立大日本婦人衞生會

○役員姓名

東伏見宮依仁親王妃
總裁 周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子
（いろは順）
幹事 鳩山春子
同 羽田三緒子
同 岡田德子
同 高木かう子
同 山本多穗子
同 松平芳子
同 三浦敬子
評議員 石川貞子
同 岩下ゆか子
同 濱田捨子
同 長谷川仲子
同 仁禮壽賀子
同 西升子
同 土肥多越子
同 緒方悅子
同 岡山とし子
同 小川孝子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 片山龜子
同 吉武經枝子
同 丹波貞子
同 高橋孝子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部限子
同 中濱芳子
評議員 山口貞子
同 子爵夫人 松井正子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮本榮子
同 宮下吹子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

〜〜〜〜〜〜〜〜

本會特別賛成員

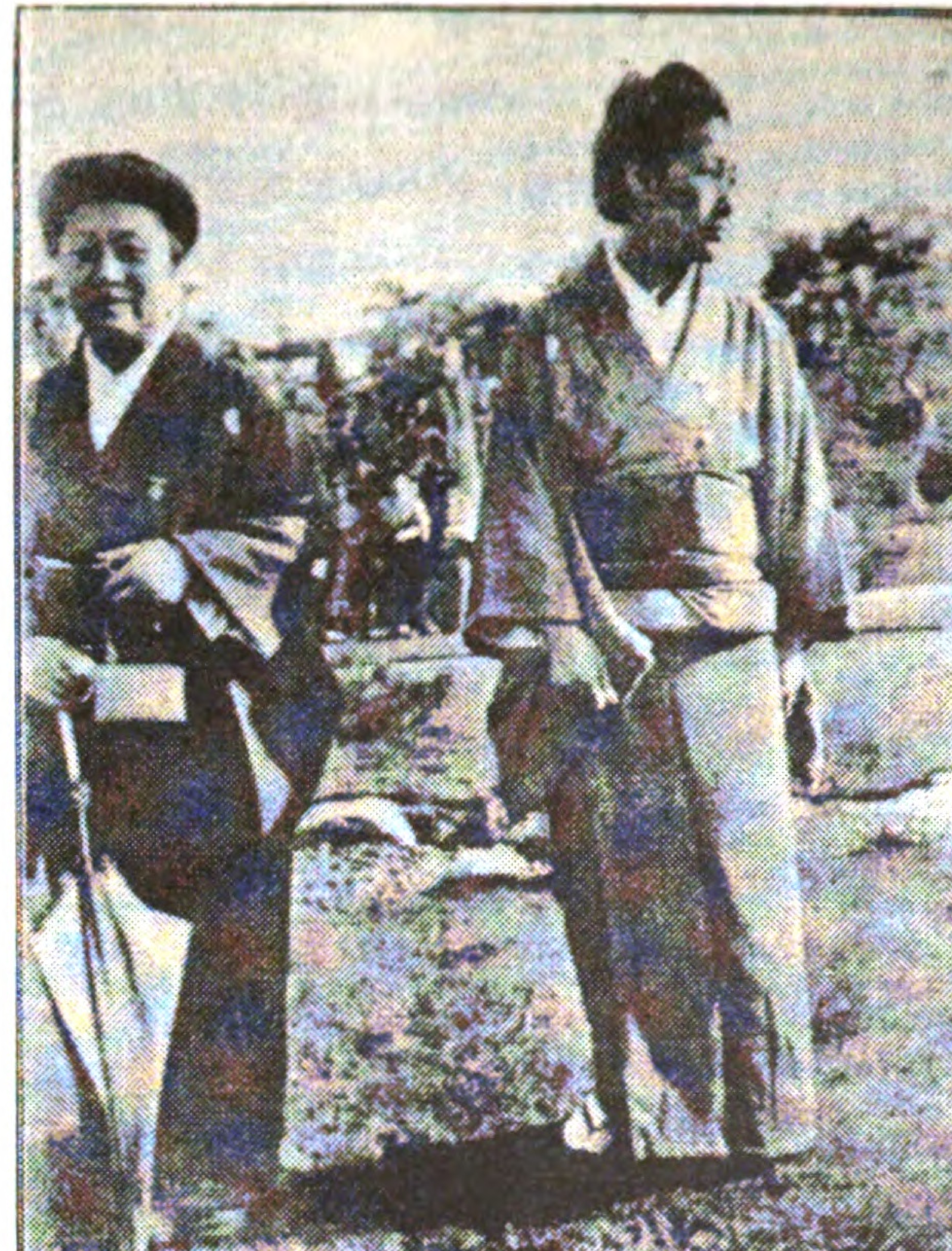
（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

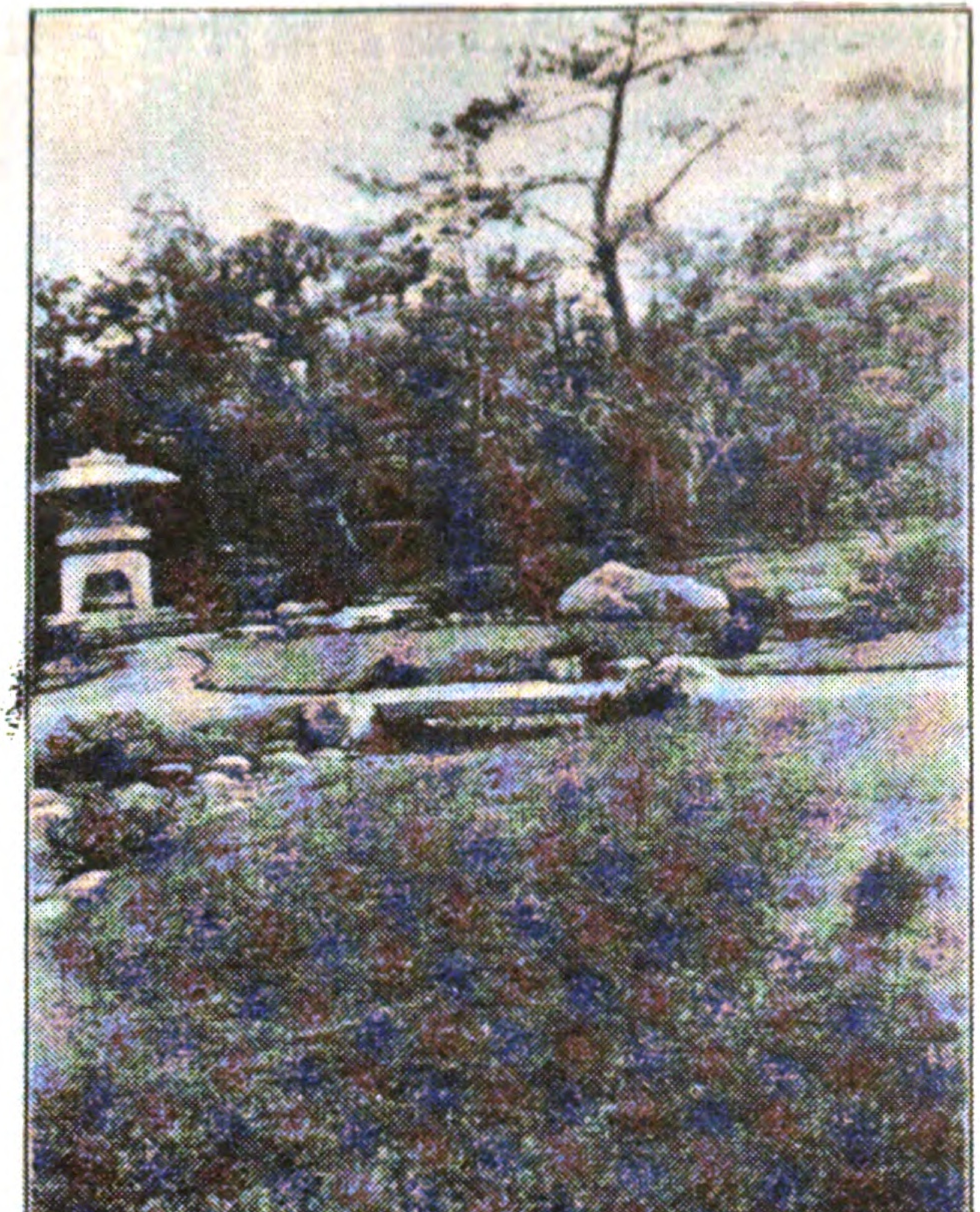
醫學博士 入澤達吉君
理學博士 飯島魁君
ドクトル 伊澤信平君
色川圀士君
醫學博士 伊東祐彦君
ドクトル 飯盛挺造君
醫學博士 伊藤隼三君
理學博士 石川千代松君
赤十字社内科主任 岩井禎造君
醫學士 石原久君
醫學士 磐瀬雄一君
醫學士 石原喜久太郎君
男爵 濱尾新君
醫學博士 濱田玄達君
法學博士 鳩山和夫君
東京 萩原猶四郎君
醫學博士 芳賀榮次郎君
長谷川泰君
新潟 長谷川一詮君
小兒科 小原頼之君
醫學博士 岡田榮吉君
醫學博士 林春雄君
醫學博士 佐藤達次郎君
醫學博士 緒方正規君
步兵中佐 堀内文次郎君
醫學博士 土肥慶藏君
醫學博士 岡田和一郎君
醫學博士 大澤謙二君

醫學士 大西秀治君
醫學博士 大澤岳太郎君
一等藥劑官 恩田重信君
醫學士 若杉喜三郎君
醫學士 渡邊房吉君
男爵 加藤弘之君
醫學博士 加藤照麿君
醫學士 賀古鶴所君
醫學博士 河本重次郎君
醫學博士 片山國嘉君
醫學士 川上雅量君
醫學博士 樫田龜一郎君
醫學博士 金杉英五郎君
醫學博士 笠原光興君
醫學士 唐澤光德君
醫學士 河野衛君
醫學博士 高橋順太郎君
ドクトル 高山紀齋君
醫學博士 高木兼寛君
法學博士 高木豐三君
醫學博士 田代義德君
新潟 田代亮助君
男爵 高崎正風君
醫學士 竹中成憲君
醫學士 高田耕安君
新潟病院長 高橋辰五郎君
藥學博士 丹波敬三君
醫學士 高橋貞頑君
藥學博士 田原良純君
醫學士 田村光顯君
醫學博士 久保猪之吉君
醫學士 米山彦郎君
二等軍醫正 星野葆光君
醫學博士 宮本叔君
三等軍醫正 横井忠國君
帝國教育會長 辻新次君
理學博士 坪井正五郎君
醫學博士 長與稱吉君
男爵 南部甕男君
理學博士 藥學博士 長井長義君

醫學博士 遠山椿吉君
醫學博士 中濱東一郎君
醫學士 黑田玄洒君
醫學士 栗本庸勝君
海軍中佐 小笠原長生君
醫學士 村松鍬三君
醫學博士 隈川宗雄君
醫學博士 栗本東明君
醫學博士 山田繼藏君
醫學士 山田弘倫君
醫學士 山根正次君
岡山 山川春二君
[illegible]技手 丸山長四郎君
ドクトル 松山陽太郎君
ドクトル 小此木信六郎君
盲啞學校長 小西信八君
廣島 小泉賓君
醫學士 古川榮君
東京 布施正顯君
男爵 後藤新平君
帝國大學名譽教授 エ、ベルツ君
醫學士 甲野棐君
寺田勇吉君
醫學士 寺田惣作君
醫學士 寺田織尾君
子爵 秋元興朝君
前軍醫總監 足立寛君
ドクトル 富士川游君
高崎醫會長 土谷全次君
產科婦人科 水原漸君
ドクトル 久保田誠藏君
醫學博士 佐々木政吉君
醫學士 淺川洪君
醫學博士 朝倉文三君
ドクトル 朝山義六君
醫學博士 吾妻勝剛君
醫學博士 佐藤三吉君
醫學士 櫻井郁二郎君
ドクトル 佐伯理一郎君
醫學博士 榊順次郎君

醫學博士 榊保三郎君
醫學士 佐藤得齋君
醫學博士 櫻井恒次郎君
醫學博士 桐淵純次君
醫學士 北村楢造君
醫學博士 北島多一君
醫學博士 北川乙治郎君
醫學博士 木下正中君
醫學士 北島小太郎君
醫學博士 北里柴三郎君
醫學博士 三浦守治君
醫學博士 三浦謹之助君
小兒科專門 宮本仲君
理學博士 箕作佳吉君
醫學博士 三島通良君
醫學博士 三宅秀君
醫學博士 三輪信太郎君
伯爵 土方久元君
醫學博士 島村俊一君
醫學博士 弘田長君
ドクトル 日高昂君
ドクトル 須田卓爾君
醫學士 澄川德君
醫學博士 木村德衛君
醫學博士 森林太郎君
醫學士 笹川三男三君
醫學士 波多野惇君
醫學博士 吳秀三君
ミス リツテル
ミス ヒユース
ミセツス コーツ
ドクトル 菊池循一君
醫學士 橋本左武郎君
醫學士 鳥居春洋君
醫學博士 土田卯三郎君
ドクトル 佐藤運雄君
ドクトル 西山信光君
醫學士 澤崎寬制君
藥學士 石津利作君
醫學博士 岡田榮吉君
醫學士 森田正馬君





（五月一日婦人衛生會春季懇親會に於て總裁宮妃殿下御手づからの御撮影に係る）
向て左會長鍋島侯爵夫人　向て右副會長濱尾男爵夫人
（記事參照）

婦人衛生雜誌第二百三十四號
（明治四十二年五月二十日發行）

講演

萎縮腎に就て（承前）

醫學士 田村光顯

それから次に男子として愼しまなければならぬのは私も多少戴きまするが酒であります、殊に火酒―火酒と申しまするとブランデー或はウイスキーなどを造る人がどうも此病氣に罹り易い、普通釀したる酒は酒の中では比較的害は少うございますけれども火酒になりますと害は多い、それから其外には屢々瘧即ち間歇熱を反復して病だ人黴毒、中毒としては鉛又は傳染病等に罹つて永く苦んだと云ふことの爲めに來ることあり、或人は此病氣は遺傳することが多いと云ふて居ります。

それでは萎縮腎はどう云ふ症狀を呈するかと云ふことを是から御話致します。今迄のは前置であります其症狀を御話しましてそれに依つて養生したならば十年生きるところは十五年生きる、御老人が此萎縮腎に罹つたならば其人に養生を勸めたい、と云ふのは到底癒ることは出來ぬけれども十年で死ぬところは十五年生きる、詰り何年だけでも生延びると云ふことの利益がありますから、其症狀を申上げやうと思ひます。

此症狀は非常に澤山あるのであります、少しの症狀で果してそれが備つて居りますればどんな人でも間違はないのでありますけれども其症狀が非常に澤山あります爲めに間々診誤まることがあります、其中最も主要なる徴候と云ふのは三種あります、第一尿の性質、第二循環器の狀態、第三眼の變化、此三つは缺けることの出來ない、どんな萎縮腎でも其

變化はあるのであります。

此患者は始めの中に於ては極く壯健の如き顔付をして、赤味を帶び健康狀態を裝つて居ります、それが爲に己れも許し人も許して眞に健康であると言つて居りますと豈計らんやもう既に萎縮腎に罹つて居ると云ふことが間々あるのでございます。

此患者はどう云ふ風になるかと言ひますとどうも此頃は年齡のせいか知らないが、動悸がしていかぬ、息切れがする、家の人もそれは御年のせいで温かくして居れば癒りますと云ふ、本人も年齡の加減だ位に思つて別に構はずに濟まして居る。

それから頭痛がするとか、此頃はどうも食物が不味い、少し旨いと思つて餘計食べると胃加答兒を起す其所で醫者の所へ行くと、醫者も直ぐ是は胃ですと言つて胃の藥を吳れる、本人も胃病だと思つて居るが、其實敵は本能寺に在りで、別のところに病氣がある、是も吾々如き閑な醫者ですといろ／＼研究も出來ますが、隨分流行る人ですと、さうとは心で思ひながらも患者が其後から／＼と詰掛けて來るものですから尿の分析などする閑暇のないことがある、爲めにツイ知りつゝも誤診をするのであります、それから老人として一老人通有のことで看過せられないものは視力の減退であります、眼が霞んでいけない、どうも眼鏡を掛けても眼が霞む、誠に工合が惡いと云ふことを老人が言ふ、眼鏡を掛けても段々視力が鈍ぶつて來る、それから眼科醫者に診て貰ふと疾に萎縮腎に罹つて居ると云ふので眼科醫者に發見されて內科醫者が赤面することがあります、是は檢眼鏡に掛けて眼底の檢査をすると直ぐ分ることであります、其外には聲が嗄れる、是も年齡のせいだらうと言つて一向濟し込んで居る、其れが喉頭粘膜の慢性浮腫によりて來るのであります、其れから耳鳴りがする、甚だしき頭痛、多くは偏頭痛、頑固なる衄血、このときは多くは嘔吐を伴ふ此れ已に萎縮腎に因する慢性尿毒症を起して居るのである、其れから其外最も普通のことは小便の增出で、どうも夜

寢てから小便に起きるのは辛い、寒いのにどうも應たえると云ふ人があります、それが詰り言ふと病氣に罹つて居ればこそさう云ふことがあるのであります、甚しきに至りますと晝間の尿量よりは夜間の尿量の方が多いことがある、多いのになりますと三千立方センチメートル位出すことがある、或人は非常に多量で一萬三千立方センチメートルも出た萎縮腎を見たと云ふことを報告して居りますが、私は未だ其れ程多分に出るのは見たことがございませぬ、併しあつたんでございませう、又其量は日によつて大なる差のあるものであります、其れから普通のでありますと千七八百から三千位のものです。

さうして其所で始めて氣が付て尿の分析をして貰ふ幸ひ其時に蛋白質を見れば誠に誤診もない、患者も幸、醫者も幸、ところが不幸なる哉萎縮腎と云ふものがさう始終尿に蛋白質があるものではございませぬ、時に依るとまるで無いことがある、どんな精密な分析をしても蛋白質を見ることが出來ないことがある、そこで糖尿病の時も尿量を増すからと云ふので糖尿の試驗をしてもどうもない、其れでは是は尿崩症と云ふのであらうなどゝ飛んでもない誤診をすることなどがあります。

此萎縮腎の時には一回だけの尿の檢査で滿足してはいけない、絶えず尿の檢査をして居らなければなりませぬ、ですから中々口で言つてもやることは六ケ敷い、患者の方でも一度試驗を頼んで何ともなければそれで濟して仕舞ふ、斯う云ふことになつて詰り兩方が惡い爲めに誤診と云ふことが起るのであります。

それから段々病氣が進みまして、途中で倒れることがある、それが若し半身不隨でも起して居れば直き醫者にも掛り、醫者も注意しますけれども癲癇樣發作と言つて、極く僅の間人事不省に陷る、氣が付くと何ともない、少しの違もない、ズン／＼途を歩いて往つてしまう、知らずに濟すことがあります、若しそれが數度來れば其中には氣が付きますが一回で

御仕舞になつて仕舞ふ、さうして、一週間なり十日なり經て又來ることがある、之を稱して萎縮腎性の癲癇樣發作と申します、私の見ました中には一日に十四回癲癇樣發作を起した者がございました、さう云ふ強いのになりますと幾らへボでも氣を付けますけれども、中々往來で倒れて―失神する、又直ぐ氣が付くと云ふのになりますと間違易うございます、いろ／＼の事からして看過して仕舞ふ、其他に最も恐るべきものは萎縮腎から來るところの腦溢血であります、詰り卒中、或は中風であります、先達の井上閣下の御病氣も是であります、其他神經痛が來る、どうも腰が痛んでいかぬ、誠にどうも腰が倦怠くていかぬ、是は疝氣のせいだらうなんて言つて居りますが、是が矢張大きに誤を起す基であります、さう云ふ時には必ず尿の檢査を賴んでして貰はなければならぬ、萎縮腎であるか、糖尿病であるか、若くは坐骨神經痛であるか、坐骨神經痛と云ふものはさう無暗に來るものではございませぬが、糖尿病だの萎縮腎の時に一つの徴候として來ることが多きことであります。

それで通常腎臟に病氣があるとすると體中に浮腫みが來る、是が有つて呉れると腎臟病を診斷するに大變樂なのです、ところが此萎縮腎に於ては初めに水氣卽ち浮腫に罹ることは甚だ稀なのであります、それで萎縮腎患者にして健康狀態を裝つて居た者がどうも此頃は足の方に少しむくみが來たと云ふやうになつてくると、もう萎縮腎はそろ／＼末期になつたものと言はなければなりませぬ、それはどう云ふ譯かと申しますと、只今申した通り血管が硬くなる、さうすると心臟は此血管に打勝たんが爲めに必死の力を衒ふものですから自然肥大擴張する、それで普通心尖の搏動は左の乳の下の第五肋間に凡そ一指徑卽ち一半センチメートルの内方にあるのが普通の生理的狀態であります、それが萎縮腎になりますると劇しく心臟が働く爲めに左室が肥大擴張する、乳線の外方に迄及び、もつと大きく二指橫徑も外方に出

て來ることがございます、血管は又硬くなると脆くなる、護謨管で御試しになつても分ります、護謨管を一年も用ゐずに捨て丶置きますと矢張硬くなつて非常に破れ易くなつて仕舞ふと同じ結果で硬くなると非常に擴がり難い、同時に脆くなる、ですから心臓がそれに打勝つが爲めに非常に働く非れで心臓も或る程度までは働くがだん／＼疲れてくる、即ち心力の減弱を來し浮腫を發する譯であります、又た心臓は非常の力で働いて居るが其の血液を受く可き血管は脆くなつて居る、脳溢血を起すのは此所で、脳溢血を起し易くなる。

此萎縮腎と云ふ診斷が付て居りましても、長い病氣でありますから始終醫藥に親んで居ることは六ケ敷い、時に依ると藥を止める、醫者も診ないことがあります、此際附添て居る者の注意しなければなりませぬのは萎縮腎患者の尿量の減ることであります、此頃は宜い按配に小便が遠くなつて安眠が出來ると濟まして居ることがございますが、それが非常に危險なので、何故危險だと云ふと、今迄は心臓が非常な力を以て働くにも拘らず最早堪へることが出來ない、爲めに心力が弱つて仕舞う、そこで始めて萎縮腎に浮腫―水氣が來る、是が心臓の弱つた證據で末期に迫つた徴候であります。

其次に小便の色、甚だ穢いことでありますが、萎縮腎患者並に糖尿病患者の小便は甚だ奇麗であります、殆ど水の如く水と間違へる程であります、普通は琥珀色を呈して居るものでありますが、此萎縮腎患者並に糖尿病患者になりますと淡黄色を爲して居る。

それから小便を致しまして、暫く見て居りますと普通は泡が直きに消えて仕舞ひます、ところが萎縮腎の小便は極く淡いのですから恰もサーッと流れさうであるにも拘らず、其泡は何時迄も存在して居る、是は屋外に出た時でなくては出來ないことですが、一寸發見し易い徴候であります。

只今萎縮腎も糖尿病も同じやうな小便を出すと申し

ましたが、或事に就ては相違があります、それは萎縮腎は非常に少い蛋白質を含んで居る、若くは含んで居らぬこともありますが、片方の糖尿病になりますと非常なるプロセントの糖分を含んで居つて其目方が違ひます、誰も小便の目方を計る者はありませぬが、是は比重計を入れて見ますと直ぐ分る。

糖尿病になりますと是が非常に重いのです、一寸見ると大變輕るさうな液體が此比重計を入れて見ますと千三十とか千三十五とか云ふ目方を有つて居ります、萎縮腎の方になりますと千十以下、或は千十五位のもありますけれども多く千十以下で殆ど水と差はない位なことがあります。

それから其次は眼底の檢査であります、是は眼科醫者の領分でありますから、此所では詳しく申しませぬが、此病氣に來る眼の變化は蛋白尿性網膜炎と申します、眼が霞むと云ふことを前に申上げましたが霞んだり或は視力の減退する時に眼底の檢査を致しますと、視神經乳嘴と云ふ眼を寫眞器械の如きものと假定すれば物體の映る所であります、其周圍に淡黄白色の斑點が附きます、少し膨隆します、それがずつと視神經乳嘴の周圍に顯著し、尙ほ眼底に一種の慢性浮腫を呈することも認められます、時によると少しく出血して居る點なぞを見出すことがあります、其れから鼻血が出易くなる此れ前にも腦溢血の時に申しました如く心臟が非常の力で働くから血管はもろくなつて居る故であります、其他濕疹—非常に痒くなつてボツ／＼が澤山出來る、掻くとチクチクする、醫者に懸つて癒して貰ふ、又跡から出來る此病氣の症狀としては先づ此位なものであります。

面白い話ではございませぬが、老人が御在りになれば其老人に對して周圍の者が注意しなければならぬ、此等のことを心得て居りますと大變宜からうと思ひまして其御話を致したのであります、若しさう云ふ病氣に罹つた人の處置はどうしたら宜からうかと云ふことは是は醫者の範圍になりますが、先づ成るべく海濱の様な溫暖の地で、空氣が清良で且氣

候の變化の無い處に住まはせたならば大變榮養が良くなつて、腎臟の萎縮して行くのも幾らか妨げることが出來る、隨つて少しは長く生きることが出來るのでございます、此外藥のことは醫者の範圍でありますから申上げませぬ、甚だ下らぬことを申上げて御聞き苦しかつたでございませうが今日は是で御免を蒙ります。

叢談

婦人の厄年

醫學士　渡邊房吉

古來陰陽師が『厄年』と稱へ、此年には種々の厄難に遭遇する虞れがあるから大に注意せねばならぬと云ひて忌み嫌ふと云ふのは、如何なる根據から割り出したものか知りませぬが、醫學上の見地から考へると、此『厄年』と云ふものが何うも人體の生理學と一致して居る樣に思はれ、無下に荒唐無稽の迷信とのみは申し難いやうであります。例之ば男子の厄年は二十五、四十二、六十歳などで、多少身體發育の順序と符合して居ります。二十五歳前後が漸く乳臭を脫して男子一人前になりかけた時、四十二歳頃が十餘年の奮闘後ホツト一ト息付く時で、六十歳後になると多年の疲勞の現れ出て終に老境に沈む時であります。

女子の厄年は十九歳と三十三歳とであるとのことでありますが、女子の十八九歳と云へば娘盛り花盛りで、內からも外からも其危險の極めて多い時であります、第一に身體の構造が今迄とはガラリとかはり今日迄覺へのない新事實のみが新しい經驗となつてきて、心を驚かす事のみであります。身體には脂肪が附いて色は白く、骨面や關節が圓々して美しくなり、乳房は『牝鹿の雙子なる二つの小鹿が百合花の中に草を食む』やうに左右に垂れ、月經は二十八日

毎に反覆して云ひ知れぬ苦痛を與へ、全身には一種の氣が循環して羞恥の念と、異性を慕ふ情とが湧き一壁拭ひ去つた蒼空のやうな無邪氣の少女時代は之を尋ねても見當らず、昔を今にするよすがとては全くないやうになります。此時代の精神狀態としては渇仰希望の念のみが盛んで、心は輕移性となり蝶の様に此花から彼の花へ飛び、空想の勢ひが強くて現在の位置に滿足が出來ず、又輕信性となつて輕々しく人を信じ、從て人の僞言に上せられて後悔の種子を播き、或は煩悶病となつてトンダ間違ひを仕出かし易く、イヤに獨身主義などを云ひ觸らしたくなるものであります。

斯樣な次第でありますから、此時代の婦人にはヒステリーや、神經衰弱や、精神病などが發病し易く、或は不了見や淺はかな考へを抱き易く、身體の經濟も無邪氣な少女時代とちがつてきて種々の病氣に誘はれ易くなります。凡て病氣の發生には誘因と云ふものがあるもので、如何に猛烈な病氣でも多少の弱味に付け込んで發するのが常で、胃腸が惡ければ赤痢やコレラにかゝり易く、風邪をひけば肋膜炎や肺結核にかゝり易いと云ふ樣なものであります。然るに此少女時代から女子時代への變遷期たる十八九歲の頃に於ては、心身の狀態が上記の樣に一大變化を受けますから、種々の病氣にも乘せられると云ふのであります。

故に母として、其娘が、此時期に到達するに程のないことに思ひ付いた時には、私かに之を別室に招いて、既に其娘の成人の域に近づいた事を語り、月經の事や、男子との關係や、平素の心掛けや、生殖器能の生理などを談してきかせ、苟めにも過ちの無い様に心掛けねばなりません。此の如くすれば『厄年』をして『福年』となすことも決して難くはありません。

此時代に達した女子自身としては先づ其精神を安靜にして高尚なる希望を抱き、純潔高貴なる生活を送る様に心がけ、かりそめにも虛榮に憧れ、空想に耽

けらず、獨りをつゝしみ修養の道に志ざさねばなりません。乳房は之を壓迫せず、日々之を清潔にし、陰部は一日一回づゝ必ず石鹸と冷水とで洗ふ。月經の時には暖かな室で、體温位に冷却した沸騰水を以て、少くとも一日三回位洗ふ。

女子第一の厄年は生殖慾の盛んになる時でありますが、第二の厄年は生殖慾の漸次減退してくる時で、從て三十三歳では少し早い、少くとも四十歳乃至四十五六歳迄が

生理的に婦人の厄年

であります。此時期には月經が閉止して最早や生殖能力の無き事を示す樣になります。勿論此時期に入る女子の年齢は一樣でなく、寒國の人よりは暖國の人の方が早く、高貴の人よりは下級の人の方が早いもので、其外種々の條件が之に關係して居ります。例之ば處女時代に早く月經の潮した者は其閉止することも遲く、幾度びもお產をした健康な婦人ではお產をした事のない婦人よりも此時代に入る事が遲いものであります。或は糖尿病や、脂肨病や、肺病やバセドウヰー氏病の樣な體力を弱めるところの病氣では、四十歳にならぬうちから月經の閉止する樣なこともあります。故に醫學上に於ける婦人の厄年と云ふは、必ずしも三十三歳に限つたわけではなく、月經の閉止する頃と云ふ意味であります。

月經のいつ迄も閉止せぬと云ふ場合には、必ず常に大いに注意し、醫師の診斷を仰がなければなりません。何故かと云ふに子宮癌とか子宮筋腫とか云ふ由由しき婦人生殖器病の時には、月經の止むまもなく時々不定の出血のあるからであります。

月經の閉止する時にも身體の組織がガラリと一變してくるから、種々の病氣や變化を來し、婦人に累を及ぼすことがあります。

殊に多くの婦人に見るのは所謂『脂肪肥滿』と云ふもので、首頸と云はず、乳房と云はず、腹の周り、腰の邊りが凡てブテ／＼して天晴れ關取りを凌駕する樣になります。斯樣な時には身體の肥滿に連れて心

臓の力が弱くなり、やゝもすれば呼吸困難がし、動悸がして堪まらぬ事があります。月經の閉止と共に全身に於ける血液分配の模様が變り、且つは神經系統が頗る過敏になつてくるから、頭痛、逆上、眩暈、不眠、心配等が相次で到り、又衂血や痔疾などに惱み、消化器の狀態も變つてきて食慾が不正になり、或は便祕し、或は下痢する樣になります。

生殖器も此時期に於て種々の病氣になり易く、殊に癌腫は其恐るべきものゝ一つで、其好んで發生する所は乳房及び子宮で、前者を乳癌、後者を子宮癌と云ひ、成る可く時期の後れぬうちに手術をしなければ、遂には之が爲めに命をとられる樣になります。其外子宮の出血、白帶下、陰部の堪へ難き搔痒等が或は鬱血のため、或は神經過敏のためにくる事があります。

此時代に當りて淫慾の寧ろ高まる樣なこともありますが、心猿意馬の狂ひ廻るに委かせる時は甚しき害となるものでありますから、必ず手綱を引きしめて之を制御しなければなりません。

循環系統も多少惡くなりますので、血液は濃くなりて血色素に富み、其全身に於ける分配は一樣でなく、前に述べた樣に或は頭部に溢れて逆上となり、顏面はホテリて紅くなり、或は汗がニジみ出す、或は心臓及び血管内に血液が集つて胸内苦悶や、心臓の亂搏や、脈搏の不正等を來すことがあります。

神經系統の病氣としては不眠症や、眩暈や、頭痛や神經痛などがあり、或は精神が變になつて純粹の『キ』印になることもあります。婦人の自殺者の多くは實に此年齡に多いとの事であります、私が此時代を目して醫學上より見たる婦人の厄年と云ふのも、强ち無理ではなからうと思はれます。

然らば此『厄年』を『福年』にするには如何にしたらば良いかと云ふに、第一に湯治をするのが適當で、之が爲めに血液の循環は常に復し、皮膚の呼吸は盛んになり、神經はしづまり、全身は清潔になります。陰部の清潔は殊に必要で、排尿若くは排便の都度な

るべく之を洗ふ樣にすれば、不潔物の分解と其粘膜に及ぼす刺戟とを避くる事が出來、從て陰部に發生する種々の病氣を未發に防ぐことが出來ます。

野外の運動、平素の業務などをするのも血液の循環をよくし全身を快活にする所以であります。然るに安閑と時間を空費するものでは、種々の妄念や苦痛が集つてくるものであります。然しながら一般に頭部に血液の上る仕事は宜くありませんから、曲み仕事、細い手仕事などはせぬ方が宜しいのであります。夜は十時乃至十時半頃に寢ね、朝は六時か七時頃に起きる。

榮養は充分でなければなりませぬが度を過ごすのは宜しくない、茶、珈琲、酒類の樣な刺戟物を避け、唐辛し、蕃椒等の辛味も避ける。凡て輕い淡泊なものを常食とし、野菜果實の類を味ふのがよろしいのであります。

精神病の豫防

醫學士　杉江　董

緒言

正に美はしき實を結ばんとして、青春の花は一朝あへなくも散らされ、花顏の佳人、有爲の才子、只溫血通ふ形體とのみ化し了る。世の人は實に精神病の恐る可きを知つて、これが豫防の道を講ぜず。慾まゝに病魔の蹂躪するに任せて、到底これが恢復の策無きに至り、腕を扼して徒らに天を恨み長嘆息す。蓋し無理なる注文と謂はざる可らず。これ全然醫藥の罪に非ずして、已に主要なる個人衞生に對し不注意たりし事に歸因する多きや勿論なりとす。されば今茲に精神病豫防に就き聊か述ぶる所ありて、公衆の反省を促がし、少くも危險を未發に防ぐを得、以て社會の安寧幸福の上に稗益する所あらば、蓋し全く無用の業には非ざるを思ふ。

一、精神病者の結婚

精神病學上の研究調査に依れば、全精神病者の殆んど過半數は遺傳の關係ある事證明せらる。從つて精神病者の結婚可否の問題は、社會上重大なるものに屬す。嘗ては精神病者は反つて結婚する事によりて治癒し、或は發病せざるものなりとの說唱導せられたる事あり。されどこは、淫事斷禁てふ事が直接の原因たるべしとの推定に出で、且つ又一般に心身強健なる結婚者には、未婚者よりも、精神病的素因の少なき所よりなせし言ならんも、學問上の結果は全く之れと反對に、精神病的素因あるものゝ結婚は、反つて疾病誘發の動機となるのみならず、其素質を子孫に遺傳さすといふ尤も恐る可き危險あり。されば、生來精神上に障礙ある者には、嚴に結婚を禁戒すべしとは現今に於ける醫學上の原則なり。併し單に遺傳素質あるも、未だ其病症を發せざるものにありては、其危險因より之なきに非ざるも、尙ほ絕體に結婚を禁ずるにも及ばず。さてこの理論よりして精神病者の結婚を制限する事は、實際に於て實行し難き要求にして、益々廢失の人民を增殖さし終には國力疲憊するに至る。實に憂ふ可きの甚だしきものと言はざる可らず。玆に於て、或る一學者は極端にも精神病者には初より速かに、其生殖器を切除して、繁殖の道を絕つ可しと論述するに至れり。これ亦理論上の言にして到底實行を見るの日なけん。されば余は只目下の社會狀態よりして、幾分か嚴密なる設備機關を作りて、精神病者の結婚制限を希望して止まざるなり。

二、育兒の注意

胎兒の出產の際に於て、殊に注意を要する事は、假死、壓迫及び外傷の豫防なりとす。蓋しこれ等は屢ゝ軟弱なる小兒の頭腦に危害を與ふるものなればなり。かゝる小兒の白痴或は痴愚となるの例は、世間に多きを見る所にして、これが豫防としては、個人衞生上の注意を重ずるは勿論の事にて、宜しく又產科醫及び產婆の力に待たざる可らざる也。尙ほ又母乳の良否、授乳の餘りに長短に過ぎざる樣注意する

事肝要なりとす。殊に神經病性或は貧血性なる母の乳は、乳兒に甚だ危險多きものなれば、須らく、精神身體の強健なる乳母を撰び、少くも生後七ケ月間位は、之に授乳せしむる事を宜しとす。又平素幼兒には決して居室の温冷に過ぎざる樣注意す可し。衣服を多く纏ひて過温ならしむるは不可にして、沐浴も温度餘りに高きは不適なりとす。殊に幼兒生齒時期は最も危險多き時にして、左なきだに抵抗力弱き小兒の頭腦は、易く充血或は搐搦を發し易く、終に將來に於ける重患の萌芽をこゝに萌す事なれば、充分注意して、これが豫防敝遮に力めざる可らず。又諸其他夙に水浴に習慣をつけて皮膚を強固にし、又諸病侵入の關門たる腸胃に注意して、滋養に富み無刺戟且つ消化し易き食物を取らしめん事を要す。殊に感情及性格に注意し、平素柔順溫良なる氣風に慣れしめ、僅かの事に感激する如き事なく、事に應じ變に處して、寛優克己自ら迫る事なきの性格を養ふ可き也。

三、學校敎育

同一の家庭の下に訓育されし兄弟姉妹とても、其精神の發育狀態は個々一樣ならざるのみならず、就學年齡前後に於ては、未だ頭腦の發育充分ならざるが故に、其個人性に注意せずして、唯漫然敎科の定むる所に拘泥し、示導の途宜しきを失せば、小兒の頭腦は其負擔に堪へず、萎靡して遂に救助す可らざる禍根を招くに至らん。學校醫なるものは動もすれば只身體の健否をのみ診査するに止まる傾向あれ共、宜しく尙ほ進んで、智力の發育程度及び精神狀態をも同時に鑑査し、敎鞭者と相待つて兒童の個人性を適宜に開發するに力めざる可らず。又授業の過重は大なる弊害あり、これ身體精神の發育を害し、疲憊に陷り易ければ也。事實に於て、強健なる小兒は稍大なる負擔に堪へ得るも、病的氣質のものは、早く容易に疲勞す。されば授業中は小兒の疲勞程度によく注意して健否を區別し、決して同一準繩の下に之れを律す可らず。獨逸に於ては疲勞程度に由りて

更に組別を作り授業するの法を施行し居れり。おの小兒の欠伸は心神の疲勞を示し、已に其注意力散漫して最早や記憶を腦裏に收むる事能はざるの徵なれば、成る可く長き休息時間を設けて慰勞を取らしむる事肝要なり。强て鞭撻を加へて疲勞を顧みざるは尤も危險にして注意すべき事なり。實にかの神童と呼ばるゝもの多くは先天的精神發育の不規則なるものにして、其智力一方に偏して早熟し、拔群の成績を現はすが如きも忽ちにして精神疲憊を來たし反つて有爲の材を枯すに過ぎざる者也。

四、家庭教育

健全なる精神は健全なる身體に宿る。家庭教育の根本は實にこゝに置かざる可らず。已に學校の業務を了へたる後に更に復習若くは他の過重なる問題を强いて加するは誤れり。これ恰かも疲馬に鞭打つが如きものにして精神及び身體の上に及ぼす障碍は實に恐る可きものあり。寧ろ適度の休息及び安慰を與へて心氣を樂しましむるの道を講ずるに若かざる也。

これを要するに、就學時間と遊樂時間との關係をして規則正しからしむること必要なる條件なり。又父母の性格の其小兒に及ぼす影響は著しきものにして、寬嚴中庸を得る事必要なり。或は寬に過ぎ、或は嚴に失するが如き事ある時は、精神堅强ならざる小兒にありては、終に恢復す可らざる弊害を致すべし、其他父母教誨の失當、模範たらざる行爲及び偏奇の資性等は屢〻直ちに小兒に傳受するの虞あれば大に注意すべき點なりとす。斯くの如き場合には、必しも其父母の下に於て養育するの必要なく、寧ろ適當なる、他人の教養に委するに若かざる也。

又常に平素の生活狀態に注意を加へ健康を計らざる可らざるは勿論、各種の傳染病、腦病及び外傷は屢〻最も恐る可き精神病の原因となるものなれば、これ等に對して注意豫防は決して等閑にす可らず。又身體的疾患、殊に鼻、耳、口に於ける疾患、貧血症等時に亦爲めに精神變調の原因となる事あれば、これ等を有する小兒にありては、極めて注意して、

治療を忽諸に附せざる事を要す。

五、戀愛

男女共に破瓜期に至れば、青春の情萌え初む、文學者流の口にかゝれば、性慾に事よせて、其美を歌はるると雖も、醫學的方面より見れば春情發動の徴に外ならず。併してこは、生理的自然の現象にして、異とすべきに非ざるも、抑も亦男女戀愛が動機となりて、身を捨て、人を損ふ實例は、世間實に枚擧に遑あらざるを思はゞ、戀愛も亦恐る可きものなり。殊に注意すべきは早期春情發動なりとす。まだ肩擧げの取れぬ時より色狂ひといふ如き事柄は新聞雜誌等に於て極めて多く見る事實にして、これ等多くは其精神的發育已に正常の軌道を脱し居る場合多く、或は又或る特種精神病の前驅症をなせる場合なりとす。されば斯かる者にありては、智力は薄弱、從つて道徳の觀念に乏しきを以て、不品行に伴ひ種々なる犯罪行爲をなす事多し。又婦女子にありては、一時情慾非常に亢進し、恢復す可らざる墮落の不名譽を來たすものゝ如きは、畢竟已に一種の精神病に罹り居る一症候にして、俗にこれを、色情狂と云ひて騒げ共、只單に色情狂のみの狂人あるものに非らざるなり。最後に失戀と自殺との關係は、社會上重要なる問題にして、往々失戀に因する厭世悲觀の結果自殺を企圖する實例多し。これ全く其感動劇變及び憂苦煩悶に基ける一種の精神病發生に因る場合多し。殊に沈鬱性の婦人に多きを以て、斯る性癖の人には、殊に注意を拂はざる可らず。加之ならず、精神病性遺傳素質を有するものにありては、愈ゝ以て一層の保護が肝要なりとす。

六、結婚

結婚自個が、直接精神病の誘發的原因となるは、稀なるが如し。然れ共、結婚問題は青春の男女に取りては、強度の感情激變を來たすは疑ひなき事實にして、殊に注意す可きは、許婚時期なりとす。この時期にありては、男女共に非常に空想に耽り易く、喜悅と憂苦とは絶えず腦神經系統の上に、刺戟を及ぼ

し、殊に神經性素質を有する靑年處女には一種危害ある影響を來たすものあり。早婚と晩婚との關係に付ては共に弊害あり。早婚にありては生殖機能の未だ不完全なる爲めに、身體精神の上に弊害を來すのみならず、延て子孫系の上に累を及ぼす場合多し。又晩婚にありては、道德上より言へば、其間色交禁斷を意味するものにして、殊に本邦に於ては、嚴肅なる家庭の下にある女子に於て然りとす。この淫事斷禁の身神上に及ぼす弊害は勿論個人の素質により一樣には言ひ難きも、强壯にして健全なる精神の男子にありては、一程度の弊害を來たすが如し（虛弱者は反つてこれに堪え得るが故也）。女子にありては其關係を異にして、これに伴ふ弊害は極めて稀なり。未だうら若き寡婦のよく貞節を守り得たる例は世間に多きを以ても知る事を得、然れ共婦人にありては、男子と異なり家政上及び育兒上の苦慮、姙娠分娩等加重の任務ありて、精神上に及ぼす有害なる動機あれば、これに十分の思慮を拂ふ可きなり。最後に血族結婚は必らず排斥せざる可らず。結婚者雙互の健康を漸次迫害するのみならず、其子孫に遺傳性疾病を遺す事は今日の統計上明らかなる事實なりかの痴愚、白痴、盲啞の多くは同血族の父母より出でたり。吾人は實に彼等の殆んど人間の範圍を脫し寧ろ動物に近き滑稽なる體姿を見て、轉た憫然の情に堪えざると同時に人道上是非共血族結婚に反對せざる可らざる也。

七、職業の撰定

夫れ人々の作業能力と抵抗力とは各異なるものなれば、よくこれに準じて職業を撰擇して就かざる可らず。左なく共、職業にありては身體及び精神上不利益のもの多し。例之ば、水夫、航海者、火業者、活版職、俳優、遊妓等は皆一種疾病を誘發し易き職業にして、直接、間接に精神上に影響を及ぼすものなり。其尤も恐る可きものは職業に伴ふ精神の過勞なり。餘りに强慾にして望む可らざる事を望み、爲す可らざる事を爲さんとするは、失當笑ふ可き榮譽心

にして、一朝意外の失敗を招くや、時に精神の虚脱を來たし、終に重症の精神病を發するに至ること稀ならず。又彼の投機商及相場師の如き、時運の低落による、一喜一憂は、甚だしく感動の劇變を惹起し、爲めに精神の刺戟過度となり、又精神病の誘因となること多し、社會の階級より言はゞ、下等人民は職業の關係及び不攝生なる生活狀態、家計上の苦慮等により、尤も多く狂疾に罹る、これに反して上流の社會にありては、其原因として遺傳、神經質優柔の教育、暴飮、荒淫等影響する所あれ共、前者に比しては其數少なし。一般にこれを言はゞ、學者の如き心の業となす人は手の業をなす人に比して罹病の傾向少なし、彼の兒童學齡に達し、腦髓の發育未だ成らざるものにありては、精神過勞の害あること、實に爭ふ可らざることにして殊に教育の任に當るものゝ忽諸にす可らざること　已に教育の條下に於て述たる所也。

八、酒毒及黴毒

精神病の原因となる中毒症は數多あるも、其尤も恐る可きものは、酒及黴毒なりとす。先づ其荒酒の害たるや只に個人其者に限らず延いて子孫に及ぼし種種精神病の素因を作ること多しとす、或る確實なる統計によりて見るに、大酒家の小兒は殆んど身質異狀を認め、軀幹矮少、畸形、癲癇、白痴及其他何かの精神病に罹るか、或は夭死せるものゝみなりきと又飮酒家は多く遺傳に出るものにして、父祖の酒客なりしに基づく。又彼の犯罪者、淫賣婦の大多數は其父母大酒家なりしといふ調査によりて見れば亦以て酒の身體並びに精神の上に及ぼす弊害の多大なるを察知するに足る可き也。又黴毒と精神病とが、互に密接なる關係ある事は、疑なき事實にして、彼の脊髓癆、痲痺狂の如き疾病の殆んど黴毒に原因して發する事は普く人の熟知する所なりとす。黴毒も其初期にありては、適當の方法によりて、治療の見込あれ共、已に感染後十年前後を經て發せし神經及精神病に對しては殆んど手を下すの術なく、只死を待

つの止を得ざるに至る、又黴毒の爲めには、胎兒の流產、死產等の實例多く、或は出產するも、體質、智力共に薄弱にして到底發達の見込なし。されば、殊に青年時代にありて、身を遊蕩三昧に耽り、荒飲に馴れ、黴毒に感染するが如きは、只に一身を損ふに止まらず、延いて一國社會の安寧幸福を亂すものと謂つ可き也。

家庭療法（承前）

醫學士　A。B。生

○動脈出血の止血は如何にすべきか

鮮血が頻りに迸出して、動脈の出血だと思はれたならば、直に人工止血法を行なはねばならぬ。併し決して忘れてならぬ事は斯かる時に素人の行ひ得る止血法に、只極く一時的のもので有つてほんの急を救ふだけなのである。だから止血法に著手すると共に一方には直に使を醫士の門に馳しめねばならぬのである。醫者が來て行なふ止血法は根本的のもので有つて、損じた動脈を改めて、之れを結紮するのである。此根本的止血法は茲には說く必要は無いから、只一時的止血法のみを述べませう。醫者のする仕事としては又血管を結紮して止血するばかりで無く、出血の多かつた時には、失つた血液を補なふ方法を講じなければ成りません。即ち出でた血液の代りに食鹽水を皮下に注入する法もある、食鹽水の適度のものは人體内に少しも害を成さぬので、一時血液と同じ作用をする事が出來るので有ります。又腕や脚の方を強い護謨の紐を以て縛る方法もある、之れは縛られた部分にある血液が追出されて、心臟とか腦とか人の生命に直接關係のある重要の器官の方に送られるので、腕や脚には暫時血液が減少したからとて直に命に拘はる樣な事も無いから、暫らく移轉させやうと云ふに外ならぬので有ります。又時には他の血液を取り來つて注入する樣な人も有つたが今は行なはない。又元氣が衰へ心臟の作用が鈍く成つて

居るのを恢復さす爲めに酒精を與へたり、カンフルの注射をしてやる樣な事も有ります。要するに皆失血の爲めに來る各種の徵候を和らげ、如何にかして人の命を長く取り止め樣とするので有ります。

扨て出血を一時的に止むる方法はと云ふに、つまり其局部を壓迫して人工的に出血を妨げやうと云ふ簡單な方法で有りまして、之れに二種ある、一は直接止血法で、其出血して居る處に直接に壓を加へる方法、他は間接止血法と稱へて、出血部よりも少し上流の方に壓を加へて損傷部に血が通ひ來らぬ樣にするので有ります。

直接止血法の中最も簡單なのは、直に指頭を以て出血して居る動脈斷口を壓迫するのであります、極く危急の時には他に方法も無く適當の方法で、之れならば何等の材料をも要しない。次は消毒した綿を用ふる方法で、現今の家庭には大抵脫脂綿位は備へてある家が多いから之れを用ふれば宜しい、綿を厚く疊んで創の處に壓貼して置くか或は綿を以て創口に塡塞して仕舞つて、其上に緊密に繃帶をして置くので有ります。小さき動脈からの出血には大抵此位の方法で止血するので有ります、靜脈止血も略ぼ此方法で宜しい。併し此直接止血法で注意せねばならぬ事は、創口に不潔のものを近けない事で有ります、指頭で壓迫するにしても指頭が汚れて居る時には、却て黴菌を創所に植え附ける樣なもので却て害を成す、又綿を用ふるにしても餘り不潔な綿では危險を來すばかりである。之れを要するに直接止血法と云ふのは何でゞも其局部を壓迫すればよいのであるけれど、徒に黴菌を持來すばかりなら却て行はぬ方が勝る位である。殊に危險なのは、昔から日本の人の行なつて居る惡い習慣、出血の時に袂の中に貯まつた埃を附ける事で有ります、之れ程馬鹿氣た不都合な習慣は有るものぢやない、埃の中には幾多の有害なる黴菌が充滿して居る筈であるのに、之れを創所に附けると云ふのは實に危險千萬の事と云はねば成りません。傷所に不潔のものを附けて害の有るのは

目に見えぬ黴菌の作用であるから一寸わからぬけれど、黴菌の入らぬ様にした創と、捨て置いた創とが治癒の上に大に遲速の有る事を見れば明である、創に膏薬を貼つたり繃帶をしたりするのは、膏薬の中に黴菌を殺す力の有る爲めもあるけれど、其主要の功は、之れにて黴菌の入る事を防ぐにあるので有ります。

間接止血法と云ふのは前述の如く動脈幹の走路に沿ひて、適當の部を選びて壓迫するので有ります、其適當の部は後に述べませう。斯く壓迫するには何で壓してもよいわけで、つまり之れにて血の通ひが止まりさいすればよいのであります。だから最も簡單な方法としては指頭を用ゐて、動脈幹を壓迫する方法でありますけれど、之れでは隨分力を要する事でもあり、時が長くかゝつてはとても耐えられないから、他に何か止血器として壓迫するものを用ゐるので有ります。止血器には種々のものが有りますが、別段如何なる形でなければ成らぬと云ふ事はない、目的を達する事が出來ればよいのであります。即ち簡單な方法には適當の處を何か紐を以て縛つてもよい、帶の様なものでもよい、成るべくは彈力の強いものがよい、殊に護謨を織り込んだ帶様のものが有らば最もよい。斯く只紐で縛るだけでもよいが、今少し適切に行ふには、縛らんとする部分の動脈幹の上に何か堅きものを當てゝ其上を紐を以て縛る方法である、堅いものは何でもよい、木片でも、小石でも、コルクでも何でもよい、之れを清潔な布にでも包んで動脈幹の上に當てるのであります。是等の方法を行ふに就ての注意は、第一止血器をあてる處が動脈管の上でなければ成らぬ、關係の無い處を縛つても無益である、だから縛る時には皮膚の上から觸れて見て、搏動のある處を觸知して其處に行なふのである。次に又縛つた後に矢張血が通ふて居る様では無效であるから之れをよく見て、縛つた處より下流で動脈の搏動が確かに停止した事が明でなければなりません。若しまだ搏動がある様ならば直ちに止

血をやりかへねばならぬ、此時に單に紐で縛つてある場合には、此紐の下に小さき棒を入れて捩るのも一法で有ります。

扨て此間接止血法を行ふに適當な處とはと云ふに壓迫する箇所は成べく其下位に骨とか軟骨とか云ふ樣な硬組織の存する處で行ふて、上からの壓迫と下の硬組織の抵抗との間に狹む樣にせねば成らぬ。若し下に軟かな組織のある處では、上から如何程壓迫しても下の組織がそれに從て動くから一向壓迫の用をなさぬので有ります。併し何處にも都合よく下位に骨があると云ふ譯には行かぬから、其場合場合に應じた方法を採らねばならぬ、夫れによつて指頭を用ゐたり、帶を用ゐたり、壓枕を用ゐたり、それ〴〵其目的に從つて方法に適不適が有るのであります。

又止血法には前に述べた如く動脈の上を縛るので有るが、其箇所は何處にすべきかと云ふに、其動脈管で傷所より上流の部分で、成べく動脈が皮膚表面に近く淺在せる處を撰び、其中で成べく下位に硬組織のある處に行なふので有ります。而して此動脈の上流下流は如何にして定めるかと云ふに、動脈は心臟から流れ出す血管で有つて、心臟は左胸部の左の乳の奥の邊に在るのでありますから、つまり此處に近い程上流で遠かる程下流と思つて居ればよい、故に四肢にては指に近い程下流で、頭部にては上部程下流である。詳しく云へば何處の出血には何處にて止血すべしと云ふ事はちやんと定まつて居るのでは有りますけれど、之れを一々覺えて置く事も出來ますまいから、只上記の事だけ知つて置けばよからうと思ひます。動脈の搏動のある處は指頭で觸れゝば誰にても觸知する事は出來るのであるから、傷所の上流に當る處で搏動のある處を壓すればよいのである、搏動のある樣な處は大抵大きな血管であつて、其下流にある血管は數條に分岐して居る時にでも、其本流は多分此搏動の有つた太い血管から出て居るのであるから、之れで壓迫すれば止血する事は出來るので有ります。併し勿論何れにしても之れは一時

的の方法で有りますから早速醫を招かねば成りません。

手と指と爪と（下）

H．K．生

疣贅―疥癬―爪の發育―小爪―爪の色澤―爪の形―爪の衛生―爪のお化粧

△疣贅　是も手や指の背面の方にでき易いもので手の美を損する事は少くありませぬ。唯一つできる事もあれば又集つてできる事もあり、そして暫くして何時ともなく消えて行く事もあれば又久しく殘つて居て益々其數の殖える樣な事もあります、是を取除くに一番手輕な方法は疣の根を絹絲で緊しく縛て置き、二三日經つてから發煙硝酸を塗るか、又は其代りに過鹽化鐵の溶液を用ひてもよろしい。其外廣く世に行はれて居るのは毎日一〇％の水楊酸ころじゆーむを塗り乾いた所を取除けては其後え後へと之を塗つて、後は暫くピック氏の軟膏と云ふのを貼布つて置けばよろしいのです。此外又疣の根の方を電氣を通じてある針でつゝいて治す方法もあります。

△疥癬　俗にしつと申すものであります、是は疥癬蟲と言つて極小さな蟲が皮膚に寄生する爲に起るもので、腕や腿の關節の内側、腋の下、腰の周圍りなど總て身體のうちで外の部分や衣服と擦れ合ふ箇所に多く見受けますが、何時でも手の指と指との間から始まるのが普通であります。此蟲は皮膚の角質の間に長い隧道を拵へて奥深く迄喰込で參るものであります、始終痒いのでそこを搔くために其上に色々な症狀が起り、或は肌が荒れて褐色に色づき、或は爛れて濕疹を引き起す樣な事もあります。是は極めて傳染り易いもので取分け小兒では皮膚の柔らかな爲に之に侵され易う御座いますから一層御注意が大切であります、疥癬は一度之に罹りますと仲々頑固で且再發し易いものでありますから少しでも怪しいとお氣が附かれたなら直ちに醫者の診療をお受けに

なる必要があります、是には色々の藥もありますが何れも其使用法が可なり面倒でありますから矢張醫者の監督の下で御試しなさる方がよろしい。又前に著て居た衣服は十分に消毒を致しませぬと、一度全治つても又前の衣服を著た爲めに病の再發する樣な事は珍らしくありませぬ。

爪の發育　爪は禽獸類に取りましては身に迫る危難を防ぐ第一の備へともなり、又物を摑み餌食を捕へるなどの極めて大切なる役目を持つて居るものであります、併し人間の爪は其樣な荒々しい働きは一切必要がありませぬので、只指尖を保護し、指の見えを美しくする位の優しい役目を持て居るにすぎないのであります。指さき位樣々な物に觸る箇所は他にはありませぬので、時には硬いものや熱いものなどにさわる事もありませうが、其度每に指さきが擦り剝けたり爛れたりせぬ樣にと大丈夫な爪で丁度鎧でも被せた樣に指さきを保護致して居るのであります。夫れと、白魚の樣な美しい指に櫻貝の樣な綺麗な色の爪は誠に美しい取合せで、指さきを優しくつつましやかに見せ外觀の美を添へる事も誠に少くはないのであります、其證據には試に爪のない指さきを想像して御覽になつても御分りになります、爪があつてこそ初めて美しい手らしいので、もし之が有りませんでしたなら手の指を揃へた所は誠に甚だしく見惡くい形のものとなりませう、尤も人間も母の胎内に居るうち或時期の間は手足の指さきに爪の少しも生えぬ時代もあるのであります。

小供が母の胎内に宿つてから二ケ月目から八ケ月目迄の間は、手足の指さきの背の方で後日爪が生え樣と云箇所に限り皮膚が厚く固くなるのです、併し四ケ月目位から其硬くなつた皮膚の下に爪の初まりができ、夫も最初は全くの指さきにできるのですが夫れが日が經つに從つて段々指さきの脊の方に移つて來るのであります、七ケ月目に至つて始めて極く薄い爪ができ、八ケ月目には全く兩側の溝にしつくりと嵌り込むのであります、爪のでき初める有樣は恁

云ふ風でありますが、其後爪の絶えず延びて行くのは爪の根の方にある爪母と申します部分から始終新らしい爪の實質が生れでゝ、夫れからさきへさきへと延びて太つて行くのであります。爪の延び樣は夫夫其方の身體の榮養の有樣にありても相異はありますが、或學者の研究によりますと一般に夏は冬よりもその延び方が早いと申す事であります。

小爪　私共が俗に小爪と申して爪の根の方に半月形の小さい白い部分を認めます、是は爪母からできた一番新らしい爪の實質であります、そして其箇所は爪の外の部分に比べてずつと嵩が厚いので從つて白く見えるのであります、身體の榮養の良い時には爪の發育も亦盛なので、此小爪もずつと丈が高く大きく目立ちますが、之に反して身體の榮養の十分でない時には此小爪も小さく衰へて目に立ちませぬ、長く煩つて居たとか或は妊娠の時には小爪は誠に小さくしか見えませぬが、其病氣の恢復期に入るか、或は一番目立つのはお產の後肥立ちが良いと此小爪が日に日に太つて行くのが目に見えるやうであります、畢竟小爪の模樣で以て其方の身體の榮養の良し惡しを大體推測する事ができるのであります。又氣を附けて見ますと爪に時々極小さな白い斑點ができて居て、夫が日を經るに從ひ追々さきの方へ移り行つて仕舞には何時ともなく消え失せて終ふものがあります。此の爪の星のできるのは近いうちに美しい衣裳が新調されるしるしであると申す樣な諺がありますが西洋でも是に似寄つた謎を言傳へて居る樣であります、此爪の星は何であるかと申しますに、或は爪母の半月形の小爪から別れて出たものとも申しますが又もりそんと申す學者の說では是は爪の實質の間に空氣が這入つた爲めにできるので、丁度毛髮の中に空氣の泡が入込んで白髮に見えるのと同じ理由だと申す事であります。

爪の色　爪の色は鮮やかに美しく櫻貝の樣な色澤を致して居るのが第一等であります、色澤の良い爪は眞に其外觀が優しく美しくある許でなく、同時に

其方の身體の榮養が十分で若く清く活々した血潮が身體中に滿ち渡つて居る事を示すのであります。爪の裏面に當る箇所には乳頭と申して毛筋の樣に極めて細い血管が澤山に集つて居るので、其血の色が爪を透して外に現はれるのであります。ですから血氣が多くて血の循環のよい方では隨つて爪の色がよろしく、又身體の榮養のよくなく血氣に乏しい方では爪の色も蒼白くなります、其上に榮養のよくない方では爪それ自らも養ひが惡く澤々した光が失せて鈍く白く濁つた色相となるのであります、爪のいろと血液の循環とは斯くの如く密接な關係を持つて居ますので或場合には爪の色によつて心臟に病氣のある事を確め得る樣な例もあります、夫れは爪をきつく押へますと白くなりますが、心臟の或種の病氣では其白くなつたうちに細い毛細血管の脈搏つのを認める事ができるのであります、之を要するに眞正に爪の色を良くし樣と思へば矢張全身の榮養をよくし、新しい血液の循環を盛んにするより外ありませぬ。

爪の形　爪の色澤も大切ではありますが外見上夫れにも增して大切なのは爪の形であります、爪の形が見苦しくつては折角お品のよいお手も誠に見惡いものになつて仕舞ひます。爪の形は略四角な樣でも橫巾よりも縱の長い方が品が良いとしてあります、一帶に滑澤で裂目や線條があつてはなりませぬ、夫れが身體に障りがあつて榮養が損はれますと線條や裂目ができるのであります、重いちぶすに罹ると後で爪に橫溝ができ、久しい間の肺結核や糖尿病には縱の條痕が目立つ樣になり爪の色も白く濁ります、猶脊髓の病やひすてりーなどの折にも爪が乾いて反りが來り裂け易くなる樣な事もあります、其他醜い爪の形をして居る方の多くは、以前に指さきに怪我をしたとか、瘭疽其他の腫物などができた折に手當を十分にしなかつた爲に、後から生えた爪の十分に美しい形を備ふる事ができなかつた場合が多い樣であります、ですから指さきに傷ができたとか膿を持つたとか致した時には直ちに適當な手當を加

へて、爪が落ち相になる迄放擲てをく樣な事は決してよろしくありませぬ。そのうちでも爪を最も醜くするのは爪甲黄癬と申す病で、一度之に荒された爪は蠣の貝から見た樣になつて仕舞ひます、もと此黄癬と申す病氣は重に小兒の頭部を侵すもので、頭一面毛髮の根に黄い結痂の樣なものを造るものであります、頭に此病のある小兒が癢いために始終爪で頭を搔くうちには、遂に此黴菌が爪の間に入込んで此樣に爪をも侵す樣になるのであります、ですから頭に此樣な病氣があつて頻りに痒がる小兒には指頭を繃帶で捲くか或は手袋をはめるか致し、爪で搔くのを嚴しく止めさせせねばなりませぬ。

爪の衞生　支那の南方から懸けて安南、緬甸、暹羅あたりの貴族は一般に爪の長いのを尊んで延び放題に延ばし、中には幾寸と云位迄も延て居るのもある相であります、我國でも小指や藥指の爪位は長く延ばして居る人は折々見懸ける事があります、併し此爪を長く延すと云事は第一仕事をするのに不便である許でなく衞生上から申しても誠に危險な事であります。手程色々な品物に觸はる處はありませぬから隨つて爪の間には何の樣な汚物や病毒が潜んで居らぬとも限りませぬ、如何か致しますと爪の間に黑く垢の溜まつてる方を見受ける事がありますが此等は誠に見苦しく且危險な思が致してなりませぬ、斯云風に爪は丁度手に觸つた不潔物の隱れ場所の樣なものでありますから、よく人が致します樣に藥や何かを爪さきでかいて口に入れると云ふ樣な事は最も愼まなければなりませぬ。實際に於ても病毒が爪さきによつて他に傳染される例は少くはありませぬ、其中でも一番著しいのは淋疾や消渴を煩つてる方が、何時しか不潔の毒物に觸つた爪先で眼を觸れ、夫が爲め終には目を失くして仕舞つたと申す樣な事は珍らしくありませぬ、取分け注意致さなければならぬのは朝起きた時で、よくある事でありますが母親が自分の爪さきで小兒の目やにを取つてやる樣な事がありますが、若し其母親が何か前に申した樣な

病氣にでも罹つてる方だと致しますと是程危險な事はありません。又小兒の濕疹も、始めは何處かに少許吹き出て居たのが仕舞には身體一面になるのも、夫を搔き破つた爪さきで又他の處を搔く爲で是が媒介となるものは皆爪であります。ですから爪を清潔にする事は昔しからも隨分喧ましく申しまして、諺にも三十三辰缺さずに爪をとると出世をすると云樣な事ゟ申します、是は辰の日辰の日に缺かさず爪をきれとの敎訓で誠に衞生上の趣意にも適つた事であります、爪は不斷知かく剪つて垢の溜る餘地のない樣に致し、猶其際特に注意して柔かいぶらつしに石鹼を塗り夫で爪際の滯をよく洗ひ、出來得るならば後を一千倍の昇汞水位で洗ふ樣に致せば最も安全であります。

爪のお化粧 西洋では前に申上た樣に啻に爪さきの清潔に注意致す許りでなく、其上に一歩進んでまにきゆーあーと云つて爪だけのお化粧の法すら廣く行はれて居るのであります、最も我國でも此頃はちよい〱まにきゆーあーの廣告を見受ける樣になりましたが、實は爪のお化粧と申す事は、今頃始めて西洋から入つた事柄ではなく昔しは我國に於ても盛んに行はれたものだ相であります。女鑑に、爪の切り樣、深爪好み給ふべからず、紅いかにもうすくさし給ふべし、とあります、又女重寶記にも、白粉にかぎらず、紅なども、頰さき口びる爪さきにぬることうすうすとあるべし、などゝあります。元祿ごろの婦人は鳳仙花と酢漿草の葉とを揉み合せて其汁液で爪さきを染めた相であります、其方法は此二色の草花の揉んだのを爪さきにかぶせ、柿の葉の樣なもので夫を包み一夜を越せば綺麗な紅いろに染まつて二ケ月位は洗つても落ちぬ樣になる相であります、併し此樣に爪さきに紅をさした風俗も寶曆までゝ其後は全く廢れ果てゝ仕舞つたのであります。

次に此頃行はれて居るまにきゆーあーの方法をざつと御話致しますと、先づよく手を洗つて微溫湯に五分間許指さきを浸し、爪の十分軟かくなつた所で五

本の指を揃へて同じ様に綺麗に剪み取り、次に鼈甲製の箆の様なもので爪の根の小爪を覆ふて居ります薄皮を起して十分に小爪の現はる様に致し、爪を切取つた跡は目の細かい鑢で滑かに擦り圓めるのです、夫から角製の器具と接骨木で拵へた楊子の様な物で爪と皮膚と夫から爪の兩側の溝の間に入つて居ます汚物を綺麗に取除けまして、猶ねーるぐろつすと申す液を塗つて爪を柔かにし、夫からさんぺーぱーで爪の縦にできてる筋を擦り取り、さきに小爪を出す爲に起して萎た皮を切離すのであります。斯くして悉皆兩手の爪が綺麗になつた處で初めて爪のお化粧に取懸るのであります。先づ紅いろの美しい爪くりーむを五本の爪に塗りまして其上をねーるばれつしと申す物で十分に磨き立てるので御座います、斯様に致しますと如何程お爪の色のお悪い方でも底の方から血の色が漲つて參りまして若々しい如何にも健康らしい爪に變ります、十分磨き上つた所で更に其上に爪白粉と申しまして淡紅色の粉を附けまして又別のねーるばれつしで輕く力を入れて仕舞には爪が少し熱くなる位迄磨くのです、是で始めて爪は鮮やかな色彩に美しい艶さへ出て參つて寶石も及ばない位綺麗になるのであります。猶此上に一層艶を良くする爲にねーるうにいんと申す高價な藥液を塗る方もあります。西洋では大抵の理髪店で此まにきゆーあーを一所に行つて居る相でありますが、是には随分時間も懸り又手數も要る事でありますから、何時も此通りに行つて居ると云様な譯には參りますまいが、何時でも爪を綺麗に剪る様に心掛け、又折々爪くりーむを柔な紙につけて夫で爪の簡單なお化粧を遊ばす位な事は御婦人の大切な身たしなみの一つかと存じます。

（完）

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉

（二五）活ける家の電氣装置（下）

神經細胞には各自それ〳〵の役目があつて、たへず怠らず此役目をはたしつゝあるものでありますが、一例一群の神經細胞が病氣にかゝる事があれば、他の群の神經細胞が之を助け樣とすること、恰も家族の一人が病氣であれば他の人が働いて其手助をする樣なものであります。殊に日中の仕事に打ち疲れて前後も知らず神經細胞の眠つて居る間に、其仕事を助けて全身を護つて居る他の神經細胞があります。之を邦語で

　　交感神經

と云ひますが、寧ろ同情神經と云つた方が適當かとも思はれます。此交感神經は頸椎の所から出發て、脊柱の左右を下の方へ傳つて行きますが、其間に都合二十四個のステーションがあります。此ステーションを

　　交感神經節

と云ひます。人體に於ける電氣の主線は、腦髓から脊柱の内部を下の方へ打ち架されて居る脊髓神經と云ふものでありますが、交感神經と云ふ電線は脊柱の外部を下の方へ走つて居るもので、要之脊柱の内外を隔だてゝ一條の脊髓神經と、二條の交感神經とが走つて居るわけであります。交感神經節からは更に細い神經纖維が出て、一は脊柱の中の脊髓と交通し、一は遠く心臓や、肺や、肝臓、腎臓、胃、腸などに至つて居るものであります。人體と云ふ活ける家を維持して行くには、實に名狀すべからざる種々の機能の行はれて居るもので、其機能は而かも巧妙纖細を極め、聊かにても障碍があれば直ぐに狂ひの生ずる如きものであります。腦の神經細胞計りで是等萬端の仕事を指揮すると云ふのは到底不可能の事で、恰も一家の主人が一から十まで家事萬端を仕終せる事の出來ぬ樣なものであります。故に交感神經は一々主人の命令を仰がずとも、他の神經細胞の仕事を助けつゝあるものであります。實に

　　交感神經は活ける家の一と不思議

で、或は血液の循環を司り、或は食物の消化作用

を管理し、或は心臓の搏動をたすけ、或は肺に空氣を滿たすなど、凡て腦髓からの命令がなく共たへず行はれて居る身體の作用は、皆交感神經によりて營まれるものであります。眠て居る間は運動神經も知覺神經も共に休息して居りますが、交感神經のみは覺醒て居つて、怠らず生活に必要な機能を續けて居ります。

あらゆる血管壁には凡て交感神經が分佈して居つて身體各部に流れ入る血液を調節する役目を爲し、或は血管を擴大て血液の供給を增し、或は血管を縮小て血液の供給を少くする。寒風が皮膚に接はれば皮膚の紅色のなくなるのは、交感神經が血管を收縮て皮膚にある血液を身體内部に逐ひやるからで、若し此交感神經の作用が無ければ寒さの爲めに熱を奪はれ、身體は直ちに冷却ると云ふ運命に立ち到らなければなりません。之に反しに三伏の夏季に當れば、皮膚の血管は交感神經のために擴げられ、體內の熱度は盛んに放散して內外の溫度を調節して居ます。

蒸される様な暑氣の候、若し此交感神經の作用が無ければ、熱氣は悉く體內に鬱積して悶死せねばならぬ様な始末になります。試に一片の氷塊を手の掌に上すれば、見る間に血の氣が失くなつて蒼白さなり再び之を取り去れば直ちに紅色を帶ぶるに至るも、皆交感神經が血管を收縮させるのと擴大させるのとに由るものであります。

胃の後ろの方に一つの大きな交感神經の集團があります、此集團に屬する交感神經の或ものは身體の各部に派し、或ものは身體の各機關より來るもので、此集團

太陽叢

と云ひ、腦髓が睡眠して居て他の神經に何等の命令をも發しない時に、廣く眼を見開らひてゐて、大腦に代り盛んに種々の機能をなし、能く身體を健全に維持けて行きます。故に之を頭蓋の中に腦に對して

腹の中の腦 Abdominal brain

とも稱せられて居ります。

視神經や、聽神經や、觸神經や、嗅神經や、他の運動神經やなどは甚だしく傷つけられると直ぐに其働らきが無くなつて、眼は視る事が出來ず、耳は聽くことが出來ず、皮膚に物が觸つてもわからず、鼻は香ひを嗅ぎわけず、筋肉は一切動かない樣になりますが、斯かる場合と雖も交感神經は依然として本來の役目をなし、心臟には一分間七十位づゝ脈を打たせ、肺臟には新鮮な空氣を吸ひ入れては惡しき腐つた空氣を吐き出させ、血液を全身に循環させて一身の榮養上の經濟をさらせ、胃には相變らず消化作用を營ませて居ります。

家屋を建築するには先づ其計畫をたて、次に建築材料を撰び、最後に建築家に打ち任かせる、此上更に何等の喙を容れずとも思ふ通りの家屋は出來る。我が活ける家に於ても亦た之と同樣で、榮養になるべき或る一定の食物を撰び、之を口に入れ、嚙んで、嚥下んで、之を胃の中迄送り込めは夫れで我々の役目は濟む、それから後は一切交感神經に一任して置けば、該神經は或は胃液を分泌させて食物を消化し、或は胃腸を運動させて消化された食物を吸收させ、吸收させた食物を血液中に送り込みて身體を養ふ樣にするものであります。

此の如く交感神經は大腦には關係なく獨立的に其仕事をする樣でありますが、而かも『交感』と云ふ名の如く大腦の影響を蒙ることも亦た莫大なるものであります。第一

心の狀態により交感神經の働きも違ふ

もので、心がたへず快活で、爽やかで、希望に滿ちて、幸福に溢れてゐれば、交感神經も亦た勇壯敏活に働らく。之に反して心が打ち疲れて、不平に滿ちて、ドンヨリとした天氣の樣に爽快でなければ、交感神經の働きも頗る遲鈍で、身體榮養の經濟界は從て不振の狀態に立ち到ります。故に

身體榮養の經濟を振興させる途

は、たへず精神を爽快にし、凡てを樂觀し、希望を

抱きつゝ幸福の途をたどることであります。徒らに煩悶し、漫りに悲觀し、晴れたる心窓一碧に自ら雨を呼ぶが如きは、好んで身體の健康を害ふものであります。

醫者の見たる水（承前）

東京醫科大學　神尾驥子

十二指腸蟲とは人間の十二指腸といふ部分に寄生する長さ四五分の細長い蟲で、肉眼で見た所では白い毛片の樣であります、少し度の強い蟲眼鏡で見ますれば其の前端に鉤をもつて居る口がありまして、其の鉤を以て腸壁に喰ひ込み棲息して居ります。腸の中で盛に蕃殖いたしまして、甚しくなりますれば十二指腸から小腸の上部は全く此の蟲で充されて居ります。さうなりまするど、其の人は高度の貧血に陷りまして顏色は蒼白となり、眩暈、頭痛等を起し、極度に達しますれば患者は貧血の爲め、寄生蟲の犧牲となり終る事があります。此の蟲は腸の中で非常に多數の卵子を產みますが、其の卵は肉眼では殆ど見る事の出來ない小さな長圓形のものでありまして大便と共に體外に排泄せられます。其數は實に非常なものでありまして、患者の大便を一寸燐寸の端ですくつて顯微鏡で檢査して見ますれば、其れ丈けの中にさへ數百の卵子を見る事が出來ます。此の大便と共に排泄せられた卵は長く生きて居る事が出來るものでありまして、肥料として田にまかるゝ時は直ちに水の中に入り其より河へ流れて行く事が出來ます。又斯樣に小さなものでありますから、患者の指頭、爪の間、或は衣服、手巾等について間接に水に入る事があります。其他種々の機會を得て、種々の方法で水の中に達するのであります。かうして水の中に達したものは、人が河の水や、田に近い水を飲みまする時に其の人の胃を通り腸に達して、又此所に寄生するものであります。假令其水を飲まなくとも、田の水や河の水で食器を洗つたり、野菜を洗つ

たりする機會に、卵子は其に附著して居つて、人の口の中に入る事が出來ます。又我國では大小便の肥料を直接に野菜にかけますが、若し其中に寄生蟲の卵が居りましたならば、其の卵は長く其の植物の葉に附著して居て、此を生まで食ふ時は腸の中に達して發育する事が出來ます。

蛔蟲は最も普通に見らるゝ、比較的害の少い寄生蟲でありまして、其の體の長さは四五寸もありませうか、長い蚯蚓の樣な蟲であります。此れが發生した爲めに起る害は僅かでありますが、小兒では時として痙攣を起す事もあります、又腹痛を訴へたり、不思議な事には鼻柱が赤くなるものであります。此蟲の卵も非常に多いものでありまして、十二指腸蟲の卵子と同じ位の大きさを有し、同じ樣に大便と共に體外に排出せられ、種々の機會を待つて水にはいるのであります。水にはいりました後は如何して人體にはいつて來るかはよくわかりませんが、多分水の中で孵化して小動物となり、それから、種々の變化を受け、生水から或は腐敗した果物に附著し人の口の中にはいるものでありませう。兎に角此の蛔蟲の寄生を媒介するものも亦水である事は疑がありません。

蟯蟲とは十二指腸蟲に似た蟲で、其の卵も同じ位の大きさと形とをもつて居ります。此蟲は大腸の下部及び直腸に寄生するものでありまして、其害は少い或は殆どないものでありますが、然し非常に澤山寄生しますれば、腸の內面は全く蟲で蔽れてしまいまして、丁度毛氈の樣に見える樣になります。さうなりますれば、自然腸の働きが害ねられますから從つて種々の障碍を起すのであります、そして此蟲は產卵期になる時は、自ら肛門を這いだして其の近邊に產卵し、女の子では陰部に這い込みて產卵いたします。其の爲めに肛門陰部の周圍が非常に痒くて堪えられぬ事があります。其卵も亦多く水の媒介を經て人體に入るものでありまして、或は十二指腸蟲と同じ順序を取るものもありませう、或は直接に患者

が、肛門の近邊の痒いのに任せて掻きたる際、卵子は爪の間に澤山つき、其手より自分の口にも亦、他人の口へも卵子を送り込むものであります。

其他條蟲は、長さ一丈にも達する長い紐の樣な蟲で腸に寄生し、チストマは西瓜の種子位の蟲で肝臟或は肺の中に寄生するもので、其卵は大便と共に或は喀痰と共に外界に出で、更に水に入りて孵化し、孵化した小動物は他の動物の中に喰ひ込みて其所に寄生發育し、更に人が其動物を食ふ時に人體に入るものであります。即ち條蟲は鮭の筋肉の中に隠れて居ります。

また山梨縣下、廣島、佐賀、南清等の諸地方には腸壁に寄生するシストゾームと稱する寄生蟲が居ります。其の卵子は多く血管の中に入り肝臟に達し、重大なる肝臟病を起すものでありますが、時として大便と共に外に排出せられます。此の寄生蟲の寄生を媒介するものも勿論水である事は申す迄もありません。

水は是等の種々の寄生蟲の卵子を有つて居て、人に寄生する媒介をなすばかりでなく、更に恐しい病毒を含んで居ります。其は非常に微細なる生物でありまして、普通の顯微鏡ではなか〱見る事が出來ません。種々複雜した方法で水を硝子の上に乾燥せしめ、そのあとを種々の色素で染めて、千倍以上の顯微鏡で始めて見らるゝ小さなもので、黴菌と申すのは即ち此れであります。蒸溜水の外如何なる水も黴菌をもつて居らぬ水はありません、下水の水の一滴は實に無數の黴菌をもつて居ります、我々は水道の水は奇麗であるといひますが、それでさへ一滴の水の中に少くも三四個の黴菌が居ります。

黴菌は其の身體が小さいばかりでなく、食物がなくとも長く生活して居る事が出來、また極めて少量の食物でさへ生活し繁殖する事が出來ます。でありますから、空中にも、地中にも、吾人の身體の表面にも、又器物の表面にも居ります、人の口中鼻中などは食物も水も温度も黴菌の發育に最も適當して居り

ますから、我々の口中の黴菌は實に驚く可きものであります。其他腸の中にも無數の黴菌は繁殖して居ります。然し黴菌と申しましても、其は必ずしも有害なものではありません。最も廣く散在して居る腐敗菌の如きものは、總て有機物に寄生して其の腐敗を起し、簡單なる化合物となすものでありまして、不潔な水中にありましては、其の不潔成分を分解します爲めに、水は漸々清潔となるものであります。又麴も一種の黴菌の寄生したもの、味噌も醬油も黴菌の働きで生じたものであります。酒も醸母菌といふ黴菌が米を分解した結果生じたものであります。併し一方には非常に恐しい黴菌も少くはありません、人間の恐るゝ病氣は其の大半は黴菌の寄生した爲めに起るものであるとは、決して大言壯語ではありません。癩病、結核を始めとして、急性の傳染病である所の腸窒扶斯、虎列拉、赤痢、天然痘、等一一指折り數ふる事が出來ないのであります。而して水は此等の恐しい傳染病を傳染せしむる黴菌を有つて居る事があります。此を考へて見ますれば、生水を飲むは丁度針を飲む樣に恐しいものであります。癩病や結核も水によりて傳染する事もありませうが、其れ等の黴菌は水の中では長く生活する事が出來ませんから、從つて水が傳染の媒介者となる事は少いのであります。之に反して腸窒扶斯、虎列拉、赤痢は主として水が其の傳播の媒介をなすものであります、今其の傳染の順序を少しく詳しく御話しいたしませう。

腸窒扶斯とは御存じの通り、恐しい傳染病の一つでありまして、其の病毒である窒扶斯菌は主に腸壁に繁殖いたします。窒扶斯患者の大便は多數の窒扶斯菌をもつて居りますが、此れが卽ち窒扶斯菌の水に入る便でありまして、或は地上におちますれば雨水と共に土地の中にしみこみて遂に地下水に達し、井戶の水に入り、或は便所におけるものは肥料として田畑の水中へ投せられ、流れて河水に達し、或は衣服や夜具、敷布等につき、洗濯の際水の中に入り、

或は患者の手足につきて直ちに水中に入ります。窒扶斯菌は元來水中に生活するものでありませんからかくして水中に入りましたものは早晩死を免れないのでありますが、併し猶數週或は數ヶ月間も水の中に居つて其の生命を保つことが出來るものであります、時として又河の中の窒扶斯菌が海に達する時は蠣の肉の中に入りて生活を持續する事があります。此の水中に窒扶斯菌が長く生きて居る事が出來るといふ事は、我等に取りましては、誠に重大な事件でありまして、何時、如何なる機會に乘じて、我等を襲撃するか測られぬのであります。或る時は短兵急に、直ちに飲用水の中に入りて飲まるゝ事もありませう、或る時は、果物野菜について食せらるゝ事もありませう、或は食器茶器を洗ふ際之について、他の食物と共に食せらるゝ事もありませう、最も多いのは直ちに水と共に飲まるゝ場合であります。何れにしても一度胃に達した黴菌は更に數時間の後には腸に入り此所に盛に繁殖して二週間の後にはかの恐る可き熱病を惹き起すのであります。腸窒扶斯の傳染は斯くの如くして起るものでありますから、若し黴菌が水道の如きものに入りました曉には、其の水道を用ゐて居る町に、恰も榴散彈の破裂した樣に一時に多數の患者を生ずる事があります。

虎列拉菌も腸窒扶斯菌と同じ樣に、水中に棲息して居るものでなく、其の排泄物より種々の道を經て水中に入るものであります。併し一般に窒扶斯菌よりは弱く、左樣長くは水中に生活する事が出來ません。從て便所にすてられたものは大抵幾程もなく死滅いたします。でありますから、虎列拉菌が水中に入る道は主に其の衣服、手巾、蒲團等の洗濯、或は吐瀉物を入れた器具、便器等を洗ふ際であります。そして其の水中の黴菌が再び人體に入る方法は、腸窒扶斯と異なつた所はありません。果物についた黴菌は多く一週間位で死するものでありますから、果物を食する事は左樣に恐しいものではありません、其他小供に與ふる牛乳をうすめる際にも黴菌がはい

る事があります。虎列拉も飲用水より傳染するものでありますから、腸窒扶斯の時と同じ樣に、火藥の爆發の如く、市町村等に突然大流行を來す事があります。其の例として學者間に知られて居りますのは、西暦千八百九十二年、即ち我が明治二十五年の、獨逸國ハムブルグ市に於ける爆發でありまして、此時は一日の中に全市を通じて發生した虎列拉患者の總數は實に一千人に上つたといふ事であります。當時醫學者は爭つて其の爆發の原因を研究致しましたが、後になりまして之れは虎列拉菌が水道へはいつた爲めである事がわかりました。此のハムブルグ市はエルベといふ大きな河に沿ふて居る都會でありまして、隣りのアルトナと申す町と全く連接して居ります。丁度神戸と兵庫といふ樣な關係になつて居ります。併し其の用水として居る水道は全く別々に獨立して居りましてアルトナの方ではエルベ河の上流から導びいて來たものでありますが、ハムブルグ市の方は、直ぐ其の町の接して居る所から引きあげて淨水の上市内に分配して居ります。で其の當時コレラ爆發に先ちて、市の河岸に住んで居る船夫に虎列拉患者が出來たとの事であります、故にハムブルグ市のコレラは其の源は此の一人の患者にあるものであるだらうと想像されて居ります、即ち其の患者の排出した黴菌が河水の中に入り更に水道の方へはいつたものであります。でありますから、アルトナ市とハムブルグ市との相接する所では、ハムブルグの水道を用ゐて居る通りには虎列拉が發生しましたが、アルトナの水道を用ゐて居る所には、一人も患者を出しませんでした。虎列拉が水によりて傳播さるゝものである事を知りましたのは、實は此の時からであります。

赤痢病の病源は一種の黴菌ではありません、今日迄發見せられたものは三種類あります、其の傳染は何れも虎列拉と同じ樣に水によりて媒介せらるのでありますが、此は其他蠅が其の傳播を助くるものであります。即ち蠅が赤痢患者の排泄物を舐り澤山の黴

菌を其の口端につけて飛びさり、他の食物にうつすのであります。併し赤痢病を起すもので黴菌の外に一種の微細な動物が居ります、蛔蟲の卵子の半分位の大きさをもつて居りまして、獨りで水中に運動して居ります。此の小動物は主に水中に居りて其水を飲む時に、水と共に腸に達して繁殖するものであります。

以上の三種の病菌は主として水によりて傳播さるゝものでありますが、此外偶然水中に發見さるゝ病菌もあります、そして假令偶然でも水中に入りたる黴菌は、其の生きて居る間はいつでも病源となり得るものであります。其等の中で恐しいものを擧げて見ますれば、腦脊髓膜炎を起す黴菌、肺炎を起す黴菌大腸の中に生活して居る大腸菌、トラホームの病毒菌、淋疾菌、人體に寄生して膿をつくる釀膿菌等であります。

以上の寄生蟲や黴菌等は、水中に居つて直接人間を害する生物でありますが、此外に間接に人類の害となる小生物は一々數へあげる事が出來ません、そして其等の小生物の卵子は、水の流れに從つて流浪致しまして、種々の機會を撰んで發育し、人類を害するのであります。例へば蚊の如きも其の一つであります。

理想の獻立（承前）

B．F．生

第三、どんな食物が榮養を善くするか

これを申す前に一寸お斷りして置きますが、今日迄古今東西の學者が行つた生理學、醫化學等の種々の實驗は算術や幾何代數の樣にピシ／＼と合つて來ない、學者／＼によつて說に違ひのあるは勿論の事、その實驗の報告などもまち／＼で、兩手の掌を合はす樣には參りません、尺度や桝秤りで計る樣には行かぬと云ふ事を前以て御承知を願ひます。

生理學者が、どんな食物が衛生的でもあり、また榮養に宜しいかと云ふ問題をきめる爲め、種々違つた食物を動物に與へて實驗をして見ました、其の實驗を述ぶるに先きだち、順序として、何物をも與へない時、卽ち

㈠　絶食せば幾日持つか

絶食せば云ふ迄もない死ぬる、食物を取る取らぬに拘はらず、酸化作用は肉體の中に居つた昔から絶えず行はれて居るから、一朝その源を絶たれたら早いか遅いか死ぬるものと極つて居る、初生兒などであれば四日或は五日もせば大抵死ぬる、大人では瘦せた人は早く弱り、肥えた丈夫な人は長く堪える、水丈け飲んで靜かにして居れば凡そ三十日は持ちます、人によつては四十一日も持つたと申します、水も何にも與へないで置けば七日乃至十二日で死ぬる、犬などになると餘程の強い犬で三十日より六十日位(勿論水丈けは飲ませて)生きてゐる、東京醫科大學醫化學の教授隈川博士の實驗せられた犬は、水をやる丈けで九十九日目になつて少し膨れて業平の樣に死んだそうです、此の實驗は夏であつた故外氣の溫度高く從つて酸化作用が緩慢であるから猶更ら長命したものと思はれます。猫は六十日經たぬ内に死ぬると申します。鳥類は新陳代謝が早く且つ體溫も人間よりはずつと高い奴ですから、酸化作用がはげしい、それ故、最も長いのも二十日は持ちません、御承知のお方も澤山御座いませうが、幼ない時に籠で飼つて樂しみにするあの目白と云ふ可愛らしい聲を張り上げて鳴く鳥は一朝でも餌をやる事を忘れたら夕方は籠の底へ冷く固くなり、空向けになつて死んでしまいます。蛙などは一年以上何にも食はないでも生きてゐます。

絶食した時の體重を申せば、小兒は體重の四分の一を失へば死に、大人は五分の二、肥へた人は半分或はそれ以上を失つた時に死にます。此の瘠せるのは先づ第一に脂肪が減するからで、一寸病氣をして榮養不良となるか、又は下痢でもやると、直ぐ目と頬

が落ち込んで來ますが、これは目の中や頬には脂肪の大きい塊が常にあつて、病氣か何かになるとこいつが眞先きに減るからであります、脂肪は前々に申した樣に何にも、靈妙な生活機能に關係なく、心的現象等にはあつてもなくてもよいと云ふ位なもの故一旦事あれば、眞先きかけて徴集され、御用を勤める、目方の早く減るものから順々に申せば脂肪の次は肝臓、脾臓、筋肉、血液、腸、皮膚、腎臓、肺臓次に心臓、神經で、心臓神經の樣な須臾も缺く事の出來ない器官は容易には瘠せません、かくの如く大切な器官程目方の減少は少ない故、目方の減り方を注意すれば、何れの器官が重要なものかが分かると共に、私達食物を取るには、脂肪を殖やすよりか脂肪より一層大切なもの丶爲めになる樣、注意せなければならないと云ふ事が、愈々明白になつてまゐります。次に食物が

b　ある成分の全く不足せる時の榮養は如何、各々の場合皆違つていります、カリウム＝を全く食物より去つて食せばどうか、種々な障碍が起つて來るが殊に神經系統に對して大影響を與へる、即ち麻痺痙攣が初まる樣になります。

鐵分＝が不足すると、血の中にあるヘモグロビンが出來ない故、貧血を起し、遂には血液の量が半分以下に減じて、その人は死にます、カルシユウム＝は骨を作る主成分をなすものであるから、若し不足すると骨軟化症を發する事があります。

蛋白質＝を全く食はなければ如何、脂肪や含水炭素を、いくら澤山食つても駄目で、だん／＼と五體の肉は落ち瘠せ衰へて、とう／＼飢餓に陷り、尙その儘にして置けば死にます、なぜならば、原形質即ち體の最緊要な成分の内にある蛋白質は、食う食はぬに關係なく、いつも少しづ丶分解して消耗されつ丶ありますから、ついに蛋白質が盡きて死なずには居られない。脂肪から蛋白質が出來得るとか蛋白質から脂肪ができるとか云ふ事で數年前まで學者間では非常な議論がありましたが、今日では、そんな事は

できないと極まりました。尤も脂肪、含水炭素は蛋白質の身ばかりとなつて、蛋白質の分解を防ぐ事はできますが、全く防ぎきつて、少しも蛋白質が分解しないと云ふ迄にはどうしてもならないで、蛋白質は絶えず、脂肪等を取る取らぬに拘はらず分解して遂に飢餓に瀕するを免れません。

脂肪、含水炭素＝の全くない食物を食べ様とせば、自然味のついた食物は皆食べる譯に行かぬから、食慾皆無となつて、食べなければならない筈であるのに、食ひたくない。いくら純粋の蛋白質を澤山食つても駄目で、食慾缺乏の爲め、つまりは死を免れません。

以上述ぶる所で、人間はどの成分でもその内一つを全く缺くと云ふ事は、どうしても出來ない事が明らかになりました。

次には、全く缺乏くでなく、反對に、どれか一つの成分を比較的に澤山食べる時の榮養狀態を申しませう。

○何れか一方の成分を増せば如何？

第一、蛋白質性卽ち動物性の肉類を澤山食つて他の植物性の食物を普通に食つて居る時の榮養は如何？

肉類を増せば増すにつれて、蛋白質の分解も増加する、肉類を減らせば分解も又減る、だから、いくら澤山食つても、又少し食つた時も、同じく皆分解する、盛んに食つて、盛んに分解してゐる時は、その人の生活力は盛んである。

若し澤山食つても、皆分解せぬものであれば、御馳走を毎日〳〵澤山食つて安逸を貪つてゐる、豪家、貴族は次亞燐の廣告か、常陸山、大砲の様な大きい體格になる筈である、が決して、そんな大きい人になる心配はない。いくら御馳走を食うからと云つてそんなに大きい邸宅を構へる必要もなからう。それよりも、三間裏長屋で、細い烟を立てゝ、その日をわび住いする、血に泣く細民を顧みた方がいくらよいか知れんと私は思ひます。

今假りに、毎日肉を五十目づゝ食つて居て、分解する蛋白質も肉の五十目分で、出入が平均して居る人があるとする、今此の人が急に肉を尚ほ五十目增して百目食うとすれば、分解も又段々增して四、五日目には出入平均するに至る、尚ほ更らに五十目增して百五十目食うとすれば、分解も段々增して又四、五日目には百五十目となり皆分解する樣になる、二百目、三百目と、いくら增しても、食つた丈けは皆分解してしまう。こんど、肉を減じて百五十目から百目にすれば、分解は十日內外で、百目分となつて遂に出入平均する、百目より又五十目にすれば十日內外には又平均する、が下り坂は早くても、上り坂は遲いもので、百五十目の肉を百目にしても、分解は直ぐに百目に減つて吳れない、數日間は食うよりも多く分解する、食うより減る方多ければ、その人は瘠せるより外仕方はない。こゝが注意すべき所で肉類を澤山食ひ續けて居る間はよいが、少しでも減が減ると瘦せる、蛋白質性食物は此の大缺點を持つて居る。

第二、脂肪を澤山食へば榮養の模樣はどう變るかと申せば、肥えてまゐります、なぜなれば、脂肪は蛋白質となる譯には行かないが、蛋白質の分解を防いで、蛋白質が體內に、多く殘る樣になる、卽ち肥えてまゐります。蛋白質を澤山食つて蛋白質を澤山體內へ殘さうとしても、食つた丈け皆分解するから、駄目であるが、脂肪を增せば、脂肪は蛋白質の身がはりとなつて働いて吳れるから、身體が肥えて來ます。然かし、後で申す通り、含水炭素よりも惡るいと云ふ點は、增した脂肪の量と比例して、蛋白質をより多く守つて吳れない、卽ち脂肪を二倍食つたからと云つて、蛋白質は二倍殘つて吳れない、一倍半かそこらしか殘らない。

第三、植物性食物卽ち含水炭素性のものを增せば榮養は、ずつと善くなる。脂肪が、蛋白質の分解を防ぐ力よりも、植物性の食物が持つて居る力が強く且つ確實であつて、植物性の含水炭素性のものを二

倍にせば、蛋白質は、それに比例して二倍殘つて呉れる樣になる。含水炭素の善い點は、此れ丈けでない、脂肪の分解をも防ぐ力を持つて居る、含水炭素の量を、どし／＼増せば、過剰の含水炭素は脂肪になる、從つてエネルギーの貯蓄は裕かになる。含水炭素が、蛋白質、脂肪を共に保護する此の性質は、獻立表を作る人の、最も注目すべき點であると思う。これから愈々

第四、結論

に移りませう、結論など〻大きい看板を掲げましても、人は夫れ／＼職業、性質、年齢、時候などによつて、獻立を違へなければならない故、一般に通ずる規則見た樣なものは申し上げる譯に參りません。

a　職業による獻立の差

職業には種々あつて、官吏、銀行家、農夫、商人、勞働者等千差萬別で、數へ切れない程ありますが、大體これを、精神的勞働者と、肉體的勞働者の二つに分ける事ができる。

精神的勞働者は、頭腦を大變使ひますから、肉體の健康に加ふるに、頭腦の明晰を以てせなければならん。いくら、ひどく頭を使つたからとて、新陳代謝に、さしたる影響は認められない、だから、餘り肉食するに及ばぬ、否な反つて、あまり肉食すれば反動として瘦せるのみならず、落ち付いて、事を冷靜に判斷する力に乏しくなるから、新鮮な野菜を特にお勸めいたします。

肉體的勞働者は力を要します、力は即ち筋肉の伸縮であつて、筋肉は殆んど全部蛋白質からなつて居る從つて、肉類は多く必要である、いくら含水炭素が蛋白質の分解を防ぐと申しても、貯蓄せんとするその蛋白質御自身がお留守では、貯蓄も何も出來たものでない、相當に肉類を獻立表に載せなくちやなりません。

b　年齢による献立の別

老人、壯年、若年、又献立上の差が起らなくてはならない、少年時代は、何でもかでも、あまいもので

あらうが何であらうが、遠慮柄杓なしに、うんと食つて生長する時代でありますから、側で老人などが所謂、老婆心で、甘い物は胃に惡るいの、固いものは消化が惡るいとか、頻りに世話を燒いて、若木を上から抑へ付け、折角、伸び樣とする木の根を切る樣な事をしてはなりません。勿論ある程度迄は間違ひのない樣、注意するのは大切な事であります。老人には、體の弱らない樣に、强壯劑、例へばソーブの樣な消化を促すものを與へる事は必要でせう。

c　性による獻立の別

男は女よりも體が大きいから、女は男の食量の五分の四乃至四分の三あれば十分であります。男子は强健な體格を備へ、出でゝ優勝の地位に立ち得る必要があり、女子は天然の美貌を保つて、入つて靜かに家政を司る必要があるから、男子が肉體的勞働者なら、女子は精神的勞働者と云ふ位な加減に膳立すればよろしい。

d　時候による獻立の別

夏は氣溫が高いので、體內の酸化作用は緩慢であるそれで餘り熱を發する事のない新鮮で、淡泊な野菜類を選む方がよい、冬は氣溫が下がるので、體溫を暖かく保つために、體內の酸化作用が盛んでなくちやならない、だから、それに應じて、豚の肉の樣な脂肪分の多い食物を食べる樣にするがよろしい。菜食しても肥えるもの、榮養がよくなるものと云ふ事を知らないで『こんなに菜食しては瘦せはすまいか』と、思ひ詰めて心配して居ると、神經作用で、消化が惡るくなる、だから、そんな入らない心配をせず安心して、獻立をして戴きたい、尙ほ榮養狀態は食物にのみ關係するものでなく、心的狀態に大なる關係があると云ふ事を申し上げたいが、餘り長くなりますので、何れ後日を期し、題を改めて、申し上げる事にいたします。

（終り）

育兒瑣談（其五）

H・S生

（六）人工榮養と自然榮養

人の兒が、人の乳で養はれるのは、自然である、これに反するものは、不自然である。

母乳榮養は、一名自然榮養で、不自然榮養は、一に人工榮養と名けらるゝのは、卽ちこれである。併し時あつてか、此自然榮養を捨てゝ、不自然榮養に賴らなければならぬ事もある、事情止むを得ぬ場合は仕方がないが、而も、相當に教育もあり、育兒法の一斑をすら、學んだ人にして、淺薄極まる考へから、折角泉の如くに出る乳房を持つて居りながら、此貴い、此無類な乳に栓をして、あたら牛や羊の乳をのませるとは、何と言ふ淺ましい心であらふ。

女の天職は、何が重なるものであらふか、社會のために、力を盡し、風敎の爲めに意を須ひて頂くのは結構至極であるが、生れた小供を大切に育て上げて完全な人間を社會國家に貢獻するの大責任を忘れて頂きたくないものです。

理想の人間に育て上げるのは、少くとも母たる人の願であり、祈りであらねばならぬ。

自分が、血眼になつて働いても、百歳を越す事は稀である、素より此短い人生であるから、よく働かねばならぬのは、申すまでもないが、小兒は、自己の生命を永遠に保續して行く處の、若き自己である、自分は此小供や、孫や其孫やを通じて、千年も二千年も、それ以上も生きて働く工夫をするのが、大切で、ここに思ひをよせるならば、どうして我が子に獸の乳をあてがつて、ヤレ社交だ、ヤレ慈善だなどと言つて居ることが出來ませう。

すべて人間と言ふものは、本末を顚倒しては、大變

なことになるものです。

論より證據を出す方が早くわかるによつて、事實の話しを申上げませう。

第一の證據は、人工榮養による小兒の發達は、自然榮養の小供に比して、劣つて居る事である。

ある學者が體重の檢査を施した所によりますると、分娩の時は、二千七百五十瓦のものが、其後になつて次ぎの如くに增して行く。即ち

	自然榮養	人工榮養
第一週の終	三四〇八	三三一四
第二週の終	三五六七	三三八四
第四週の終	三九九五	三六九三
第八週の終	四八一八	四三〇七
第十二週の終	五五四六	四九〇五
第十六週の終	六二二五	五五三四
第二〇週の終	六七八八	六二二二
第二四週の終	七三二〇	六九〇〇
第二八週の終	七七六七	七二八三
第三二週の終	八一四七	七七二九
第三六週の終	八五八五	八一二三
第四〇週の終	八八五九	八三三八
第四四週の終	九二〇九	八六九五
第四八週の終	九五二五	八九一四
第五二週の終	九八六二	九二二八

右の表を見ると、其關係が頗る明であるが、其他に人工榮養の小兒は、自然榮養の小兒よりも弱い。

一體小兒の死亡數と言ふものは生後一個年の間に死ぬるのが一番多いので、百人のうちに、少ない處は、十人、多い所は二十人も死ぬるのであるが、これにつき榮養の關係を檢べて見ると、人工榮養のものが多く死んで居ることがわかる。

哺乳兒の死亡數が、何に最も重き關係があるかと言ふと、榮養である。若し哺乳兒が、母親の乳で養はれて居る場合では、假令其他の生活方法が十分でないにしても、割合に死なぬ、之に反して富裕の家庭に生れたものも、人工榮養のために、死亡する場合

が多い。
ある學者が、伯林で、哺乳兒の死亡數を檢した處によると、次の如くである。

	母乳	獸乳
零月	二〇一	一、一二〇
一月	七四	五八八
二月	四六	四九七
三月	三七	四六五
四月	二六	三七〇
五月	二六	三一一
六月	二六	二七七
七月	二四	二四一
八月	二〇	二一三
九月	三〇	一九一
十月	三一	一六八
十一月	三九	一四七

右の表は、生後各月のものが、次ぎの月までに死亡する數を示したので、生保者一萬につきて造つた比例である。

（以下次號）

家庭衛生

衛生雜話

H。S。生

(三)國民病(下)

生を愛するのは、人のなすべき當然の務めである、身を健康につくりなして、人の守るべき務めを守り人の蹈むべき道を辿るは、これ恐らく衆生の希望であり、祈願であると思ふ。

害あるものは、これを除き、罪あるものは、これを棄て、禍はこれを未前に防ぐべきは、申すまでもない事である。

しかるに底事ぞ、人を毒し、風俗を害し、子孫にまで奇禍を貽す酒の樣なものに溺れるものの多數に存

することは、何と言ふ情ないことであらふ。
今の世に酒の毒などと言へば、時世後れだと人が笑ふ、希くばこの嘲笑が成るべく大きくなつてほしいものである。が然し、これを笑ふ人々が、この毒に殺されつゝあるのだ、人が殺されつゝある間は、蠅が集る程に、陳腐な事でも、述べねばならぬ。
酒の爲めに、財寳を飲まれ、家を飲まれ、友を飲まれ、家庭を飲まれ、妻や子や、夫や親まで飲まれ、あげくの果てには、子孫に因果を傳へる、こんなに恐ろしいものが、世に多くあるだらふか。
斯かることに就て、別に多くを費すまでもなく、我等の周圍に、活きた實物例がいくらでも、横つて居る。
酒のために、第一病氣になるものが多い、酒の害が顯になつたものの外に、直接にこれが證せられずして、而も恐ろしき毒を受けて居るものがどれ丈けあるか知れぬ。
酒の中にあるアルコホルは、麻醉の作用を有するものであるから、其爲めに、細胞が、麻醉する、麻醉は、正氣でないと言ふことで、彼の酩酊したる人々が、我を忘れて、或は動作に或は言語に、目もあてられぬ樣な醜態を、我々の細胞も亦演じて居ると見て差閊ない、あの有樣で眞面目なことが出來るであらふか、精力や、根氣の要る仕事が出來るであらふか、終には只眠るのみ、毒を吞んで、眠つて死んで、それで人間の務めがどうしてすむだらう、それでも人間と思つて居れるだらふか。
酒と黴毒との國民病が、我國から追擊せられない以上は、矢張り年々不名譽極まる此戰死者を我同胞の中より見ねばならぬ。
胃病は萬病の基となるとは、人の夙に唱ふる處であるが、酒のために、胃の消化を惡くし、胃の病氣を起して、さては腸病に移るものもあらう、或は酒直接のために、種々の疾病を惹き起す、わけて、神經病、精神病等が、如何に酒の影響を受けて居るかは親しく醫者の言葉を俟たずとも、心ある人の夙に知

る處である。國の法を破りて、囚牢に月日を送る可憐な人に就て檢べても、酒を飮んだものが多い、酒を飮んで暴行をするもの、或は假令その犯罪の時には、飮まずとも、常に酒を嗜んで居るもの、或は、其親や祖先が酒飮みであつた等の事情は頗る多く見る處で、日々の新聞が、多くの醜態をこれ見よがしに、臆面もなく、多くの紙面を埋めて居るが、あんな厭ふべき醜業のうちに、酒に關係のないものが、どれ丈けあるだらふか。

最近(明治四十年)の監獄統計を見ると、官吏の職務を行ふを妨害したるものゝうち、酒を嗜むもの百七十六人に對し、これを嗜まざるもの七十一人、謀殺の中、酒を嗜むもの百七人、之を嗜まざるもの七十人、家屋物品を毀損し、及び動植物を害する者には二百四十八人の嗜酒家あり、これを嗜まざるもの四十四人となつて居る、これを明治三十九年、同三十八年等の以前に遡りて、相對照しても、その關係は、約ぼ同じである。

これは獨り日本計りでは無い、西洋で、レフレルと言ふ學者が、研究した處によると、酒を飮んで暴行を働くものは、年の若いものに多いが、維也納では犯罪者の二十歲より六十歲までのうちで酒を呑んで罪を犯したものは、百人中、六十三人三分もあると言ふことである。

またベルチユと言ふ敎誨師が、ルトキツヒスブルグ懲治監に於て、其職にある間に、囚人と會談をして酒呑みの犯罪者を次の三種に分けて居る。

第一は、大酒を飮んで、遂に財產まで、飮み盡し其結果、詐欺や、竊盜をするもの。

第二は、酩酊狀態の時に、惡事を働いた者。

第三は、適宜に酒を飮んで、惡事に抵抗する力が弱くなつて罪を犯したるもの。

そして囚人の十中九人までは、酒のために、直接又は間接に害を招いで居るとのことであるが、囚人は放言して曰く

『我等を救はんとならば、我等を酒なき國に送れ、
さらば我等は、救はれん』
と。

何れの國の人でも、毒を飲んで藥になる筈はない。

精神病の關係も、これに近い。

其外畸形例へば、聾、唖、盲等の如き或は、白癡、癡愚、低格兒、身體の孱弱なるもの等について、其に檢べて見ると親が酒を吞んだ爲めに、原因となつて居る場合が、中々多い。

遺傳のことは、それ程に思はぬ人があるかも知れぬけれども、中々重大な關係がある、子が親に似るのは、人皆當然の事として怪しまぬ、似ぬ場合こそ寧ろ怪じむではないか、さらば遺傳のことも決して不思議ではない。子供の教育は生れぬ先から、之を行ふのが大切で、生れた時には、已に七分も八分も、遺傳と言ふものをうけて居る。よりよき遺傳を與へるために努力せねばならぬ。

風俗を害し、家庭を毒することも、論より證據の方が早い。

酒は人を亂し、秩序を潰し、正體を失はしめ、害毒を造る泉である以上は、風俗や、家庭が濫れるのは當然のことである。

已に家庭亂れ、已に風俗亂れんか、其次ぎに來るべきものは何？

疾病、奸邪、詐欺、討爭、嫉妬、獰惡、貧窮、陥擠、煩悶、苦惱、殺戮、死傷、自殺、犯罪、曰く何、曰く何。

古への智者叫んで曰く。

禍害あるものは誰ぞ、憂愁あるものは誰ぞ、爭端をなすものは誰ぞ、煩慮あるものは誰ぞ、故なくして傷をうくるものは誰ぞ、赤き目あるものは誰ぞ、是即ち酒に夜を更すもの、往て混和たる酒を味るものなり、酒は、あかく、盃の中に泡だち、滑かに下る、汝これを見る勿れ、是は終に蛇の如く噬み、蝮の如く刺すべし。また汝の目は怪しき物を見、なんぢの心は、詐言をいはん、汝は海の

中に偃すものゝ如く、帆桅の上に偃すものゝ如し
汝言はん、人我を擧てども我いたまず、人我を拷けども、我おぼえず、我さめなば又酒を求めんと。

國民の健康は、國民の富である、國民の富は、國民の健康である。

人を生み、人を育てる天職を持てる婦人は、如何にして強き人を造るべきか、如何にして、健全なる人を育つべきかの問題につき、細心注意をして、このことの爲めに、力を盡すは、蓋しその天職を曠ふせざる所以の道であると思ふ。



質疑

問● 私事九年前臍帶纏絡ある女兒を初産致し爾後一回の流產二回の正規分娩を遂げ候處初産の際より脫肛を來し便通に際し其右半部殆ど圓球形に脫出し折々出血し劇しき時は少しく努力せるのみにても逆出し一回に二三十瓦位は忽ち潴留致候事も數々にてたとへ止血せる間にも局部常にむづ〳〵し或はしく〳〵と痛み惡寒を覺ひ通利の氣味のみ頻回に有之候手術を要するかの如く聞及び候へ共如何のものにや若しも他に療法並に攝生法も御坐候はゞ何卒御敎示被下度偏に願奉上候

五月五日　東京　淑子

答● 脫肛には種々の原因もあれど分娩に依て起ること少からず尤も臍帶纏絡流產等直接の原因と云ふにはあらず既に問の如くなるに至ては矢張手術の要あるべし姑息的療法にては兎角治し難く苦痛出血を永く止むること困難なり然れど普通の療法並に攝生法を略述して答ふることゝせむ。

一、食物は軟き便を成す如きを撰み、辛味などを食はぬ事。葡萄は頗る宜しく、西瓜は可ならず。

一、凡て局處の刺戟を避け、力業をせず、排便後は其部を清潔に洗ふ事。油、ワゼリンなどを綿

に浸してあてをく。

一、鹽類下劑などを用ゐて便通を整ふる事。灌腸は宜しからず。

一、痛む時は阿片、ベラドンナ、コカイン、莫兒比涅などの麻醉藥を軟膏として塗布し或は坐藥として應用すれど醫師ならでは妄に用うべきにあらず。

一、血出る時は、單寧水、明礬水杯にて冷洗し、尙種々なる止血藥を用れど之も亦醫師の事なり。

一、枕を腰の下にして上體を低くし、又は蒲團を腹にして尻を高くし脚を牽きて臥すことよし。

一、鑛泉もあしからず。



○市內傳染病數

去五日の調査によれば、傳染病患者は現在二百七十六名にして、其中腸窒扶斯百三十七、實扶的里八十二、猩紅熱三十三、赤痢二十三、痘瘡一なるが、其本月一日より每日五名乃至十四名の發病者あり、其最多數なるは腸窒扶斯にして、內八十四名は市立病院に、百七十名は其他の病院に入院し、自宅患者二十二名あり。又一月一日よりの累計は九百八十六名にして、之を昨年一月以降の累計に比すれば千四百三十四名を減せり。是れ昨年の痘瘡患者は千四百五十五名なりしに本年は僅に三名に過ぎざると、虎列剌、實扶的里及び猩紅熱等の多からざりしに由るならむ。されど腸窒扶斯は百三名增せるを見る。

○ペスト襲來

海を隔て、廣東、臺灣等のペスト漸く猛烈ならむとするの兆ありとは、前月來報道さるゝ所なるが、本月に至り姫路に該患者の發するあり、京阪地方の防疫頗る嚴なりしが、今や橫濱に之を生せしより、警視廳第三部は該病の萬一東京市內へ侵入せん事を慮かり、各警察署へ此際死體檢案の勵行と鼠に

就て厳達し、猶は曾てペスト發生地たりし本所、深川、日本橋區に對しては、特に倉庫の荷物出入に注意し、水上署に於ては、海上荷物の運搬に注意すべく厳達せり。然るに去る七日日本橋區蠣殻町より一頭の有菌鼠を發見せしより、其筋に於ては非常に憂慮しつゝあることなるが、市民各自に於ても此際十分衛生に注意し、殊に手足の創傷等を等閑に附すること勿るべきなり。

○癩病取締規則

明治四十年法律第十一號及び同施行規則に基き癩病取締に關する訓令は四日警視總監より發表されたり、其要點左の如し。

△癩病患者又は疑ある患者及其死者あるか同患者の逃亡又は引取りたる時、同患者の私宅療養中行方不明の時は直に其筋へ屆出る事。

△患者の居室は別に之を定め他の家人と雜居せざる事。

△患者の衣類、寢具、日用器は他と混同せざる樣注意の事

△患者の衣類、敷布、寢具は時々消毒し洗濯する事。

△病毒に汚染したる物品は消毒を行ひ燒却の事。

△患者は成るべく他と交通を避けしめ公衆の出入する場所に立入らしめざる事。

△患者は牛乳の榨取、飲食物、同器具其他病毒傳播の虞ある業に從事せしめざる事。

△患者の使用したる者は他に使用又は貸與及授與せざる事。

△看護の爲に患者に近接し又は病毒汚染の物件を取扱ふ者は手指に消毒する事。

△患者死亡の時は消毒を行ひ火葬にする事。

○癩病療養所

東京府外十縣の癩養所は漸次完成すべく其所長も略ぼ定まれる由なるが、奥羽六縣、北海道第二區癩病療養所は青森縣東郡新城村大字石江に設置することに決したるが、村民も敢て之を排斥することなく寧ろ同情を以て迎ふるものゝ如し、然るに東京市にては癩患者を一時駐留すべき地として綾瀬廣尾大久保三地の何れかに駐留所を定めんとしたるも、激烈なる反對を受け選擇に困じたり併し之も屢々紛擾を

招げる北多摩郡東村山村秋津の療養所は殆ど竣工せるを以て、近々患者を收容することゝなるべし、又九州癩病療養所にては既に八十餘名の患者を收容せるが、何れも本妙寺附近を徘徊し題目を唱へ居たる者なるを以て、療養所内の說敎所には、本妙寺の佛像を安置し、主として日蓮宗の說敎を爲すことゝなせり、尙ほ熊本には明治二十八年以來既に英國の宣敎師ハンナ、リデル孃に依て建設されたる回春病院と稱する私立慈善癩病院のあるあり、孃は目下更に基本金を集めんが爲に英米を巡回しつゝありといふ。

○萬國看護婦會

今回英米獨各國の看護婦團體に依て組織されたる萬國看護婦會は、我邦にも代表看護婦の派遣を求め來れるを以て、篤志看護婦人會を代表して在英國大使館書記官根本恒雄氏夫人信子（鍋島侯二女）及び各看護婦團體代表者として目下御渡歐中の梨本宮妃伊都子殿下　隨行せる赤十字社看護婦會長　萩原竹子の兩氏を參列せしむることゝなれり。

○篤志看護總會

日本赤十字社篤志看護婦人會にては去る九日午後一時より總裁閑院宮妃殿下並に名譽會員各宮妃殿下の御臨場を仰ぎ第四回總會を兼ね第九回修業證書授與式を擧行し尙ほ當日は會則改正の打合せの爲め上京せる各地支會幹事約五十名及地方官會議に參列の府縣知事をも招待せる筈なるが、今回修業證書を授與されたるは今泉すゞ子外五十一名にして其内外國人二名なりと云ふ。

大日本婦人衛生會記事

○總會並春季懇親會

豫て定めてし如くわが婦人衛生會は本月一日午後一時より葵町なる東伏見宮御邸に春季懇親會を兼ねて總會を開けり。

先つ日よりわびしらに降りくらしたる雨の今日しも

名殘なう霽れ渡りて、夏近き御苑の景色いとゞ艶なるに、集へる人々のおのがじゝ逍遥する程に、その時にもなりぬれば、今日の式場に充てられたる表御殿の内なる菊の間葡萄の間も所狭ばかりに竝居つ、やがて總裁の宮妃殿下には白妙の御洋裝いと美しくもかう〳〵しく、御用掛家令の人々を隨へられ、樂隊が奏づる君ケ代の中に設の御座に著かせ給ひ、あたりを拂ふて見えさせ給ふに、會長鍋島侯爵夫人いとおほどかに開會の辭も爽やかに述べられ、次に書記會務の報告をなして總會の式を閉ぢ、懇親會に移るや細川風谷の講談二席までもおもしろく、折々つゝましやかなる笑も漏れつ、これも終りて講師の面々には特に總裁の宮より立食の饗を賜ひ、凡ての會集は水吹き魚躍る御池の畔より、若葉の翠滴る西の岡邊に遊びあひつゝ、休憩所の中には鮨、菓子、サイダなどの饗あり、樂隊は絶えず物の音をわなゝかし、役員の接待におのも〳〵うち談らふほどに、妃殿下にも暫し御歩をはこばせられ、幾度か御手づから寫眞を撮らせられ、御氣色うるはしう御退場ありしこそ、いとゞはえある會にもありしか。かくて役員には立食を賜ひ、會集一同にも御菓子一折づゝ給はり、皆人の退出つるは五時過にもやありけん。此日參集へる人々は、役員講師より會員同伴者、新聞雜誌の記者など凡そ三百にも餘りぬるが、殊に高崎支會より二三名まで代表者の參り合はれたるは、本會員一同の滿足する所、なほ役員はさることながら、原氏、藤村氏、伊東氏などの勞こそ少からね。

〜〜〜

○特別寄附金

一　五拾圓也

右は愛知縣西春日井郡山田村字中小田井松澤たつ子姉が本會の趣旨を賛せられ特に寄附せらるゝ所なりしに依て會長より感謝狀を出されたる筈なるも倘ほ茲に之を特記してその芳志を表すること爾。

〜〜〜

○山形支會

山形支會にては四月二十四日午後一時より女子師範學校講堂に於て例會を開き講師醫學士淸田梢氏の子宮癌に就ての講話あり次で割烹室に於て割烹實習をなし午後四時散會せり此日の來會者四十八名なりき。

○本會入會者

○事務所申込

●三重縣志摩郡磯部村　通常會員　杉山いく子
●小石川區關口臺町廿一音羽養生所　通常會員　岩田もと子
●牛込神樂町二ノ廿三　通常會員　黑木直子
●麴町區富士見町二ノ三　通常會員　勝村ふさ子
●横濱市南太田町一九六七　通常會員　遠藤錠子

○篠原さだ子紹介

●芝區西久保巴町三十四篠田方　特別會員　渡邊鎌子

○宮脇ちやうに紹介

●松山市本町三丁目　通常會員　岡もと子
●松山市本町岡合名會社内　通常會員　岡直代子

○伊藤弘一紹介

●府下千駄谷八五四　通常會員　平田とし子

○伊澤みね子紹介

●神田區猿樂町十　通常會員　宮崎英子

○岸滸子紹介

●京橋區銀座三ノ十一　特別會員　野村友子

○小川孝子紹介

●横濱市住吉町五ノ六五　通常會員　橋本かね子

○松平芳子紹介

●日本橋區長谷川町二一　特別會員　井川すゑ子
●麻布區竹谷町一　特別會員　山縣いね子

○山形支會

○佐柳千代子紹介

●　特別會員　澤田しづ子
●　通常會員　三川こう子
●　通常會員　神保さだ子
●　通常會員　關口たけ子

○改姓名

●伊藤こと子改メ　阪井その子

○轉居

●小石川區大塚坂下町四四へ　淸水靜子
●千葉町市川停車場北へ　天野よし子
●本郷區大學病院講習生寄宿舍内へ　村井ちか子
●麴町區元園町一ノ七へ　小山田かち子
●四谷區傳馬町一ノ三十八へ　勝田くり子
●赤坂區稻荷町黑田邸内尾崎方へ　鈴木つる子
●赤坂區青山北町六丁目へ　下田猷子
●麴町區富士見町五丁目へ　朝倉ゆき子

高峰博士創製　（消化新劑）

●タカヂアスターゼ

澱粉不消化の一般徵候　醫學博士谷口長雄氏曰く「……澱粉不消化に因する主なる徵候は胃の膨滿、疼痛、溜飲、腸內瓦斯蓄積、便秘若くは下痢等にして甚く發酵の障碍を來す是等の疾病に對しタカヂアスターゼの頗る有効なるを信す」

胃腸の虛弱なる者は勿論病者虛弱者等に本劑を與ふれは食物の消化を迅速ならしむる爲め自然食慾亢進從て營養を增進す。本劑は粉末錠劑各大小容器入として各有名藥舖にあり類似模造品數多あり必す高峰氏タカヂアスターゼと要指定、說明書御申込次第無代郵呈

佐伯氏創製　（滋養新劑）

●グリコナール錠

醫學博士**北里柴三郎氏**指導の下に醫化學者佐伯矩氏が牡蠣の滋養成分に就き研究創製せる本劑は滋養劑として肺病及一般病者虛弱者に必適なるのみならす之を用れは自から心臟を強め盗汗を制止し速かに體力を恢復して元氣を旺盛ならしむる特異の効顯あり

用法一回四錠宛一日三回用ふ各瓶百錠入として發賣せり各地有名藥舖にあり

グリコナール說明書は直接發賣元に要求せられよ無代郵送す

バークデビス　（緩和下劑）

●カスカラ糖衣錠

最も優秀なる緩下劑カスカラ、サグラダはバークデビス製藥會社が藥用として初めて治療界に提供したるものに係り同社は該越幾斯を服用に便ならしめんが爲に之を糖衣錠となせり本劑は適當に緩下の効を有するのみならす一般に腸の強壯劑として稍揚せらる又不快の副作用例へは腹痛の如き症狀を呈せさるは殊に本劑の特性にして總ての藥物中常習便秘に對して第一の特效藥とす

用量　三錠宛一日三回又は頓服として三乃至六錠を空腹時に與ふ一定時を經て緩和爽快なる便通あり

三共合資會社

●移轉！！藥局開設！！

本會社は事業の發展に伴ひ今回日本橋區室町三丁目十番地に移轉致候に就ては當分の間本會社發賣品の藥名簽及其他の印刷物に記載しある町名番地は新舊混同しあるを可有之候得ども其本會社發賣品たるに於て異なると無之候間御懸念なく御買求被下度此段廣告致候也

東京市日本橋區室町三丁目十番地
三共合資會社

本會社內に藥局を開設し社員藥學士越澤淸嶺を其主任と爲し[illegible]懇切正確に諸大家の處方調劑に從事せしめ候間藥品販賣部同樣御眷顧御引立を賜はり度切望仕り候

東京市日本橋區室町三丁目十番地
三共合資會社

（後附ノ二）

新案特許一〇三六二號

衛生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを装置せるにより舊式のもの丶如く硬からず肌ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髪の傳染病を媒介する憂なし

● 丸髷 金十五錢より金七十五錢迄

● 島田髷 金三十錢より金壹圓五十錢迄

● 銀杏髷 金二十錢より金六十錢迄

● 送料各八錢

● 諸かもじ製造販賣

東京市神田區豐島町十七番地【振替貯金口座一八一八八番】

田中金三郎

◎ 小賣特約店

京橋南傳馬町 大西白牡丹 ｜本郷三丁目 兼康｜淺草駒形 百助｜淺草駒形 紅勘｜神田區須田町 三井屋｜日本橋通二丁目 柳屋

特約店

神田區橋本町三丁目 勝本治助

日本橋區田所町廿一 山三商店

同 横山町一丁目 安井治太郎

同 馬喰町三丁目 高新商店

日本橋區若松町 松葉屋紋太郎

同 横山町一丁目 天野源七

同 馬喰町三丁目 阿部錠

同 橘町四丁目角 島村商店

日本橋馬喰町二丁目 飛川商店

同 横山町二丁目 江川小間物店

同 横山町二丁目 森本支店

外全國到る所の小間物店にあり

私立大日本婦人衛生會 米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に置く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條 每月一回（第二日曜午後一時より四時迄）講話會を開き每年五月總會をなし役員改選庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし
但し既納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として特別會員每月金參拾錢通常會員甲每月金拾五錢乙每月金五錢前納するものとす
但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 會員及員外篤志者より金品の寄贈あるときは役員協議の上特待員又は贊成員となすべし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條 特に支會則に揭げざるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を選任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上著羽織は絹布を用ゆるを禁す

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスル時ニハ其旨事務所ニ屆出ヅベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地、行森氏方

宇都宮支會

●會 告●

●前金切れにて會費未納の方は此際何卒至急御送金下され度御依賴申上げ候

振替口座東京 一〇六〇〇番

●去十二月の本誌には會員各位の御便宜を謀り振替拂込用紙を添へ置候

明治四十二年二月 大日本婦人衛生會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第參號　メツキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號　正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號　七拾錢（黑檀箱入送費九錢）　六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會並に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御求め申候へども送費とし必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なし御納附相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麴町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁共二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁共二分一以下同之　本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衛生會（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

編輯兼發行者　東京市下谷區竹町五番地　齋藤謙之丞

印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　今井甚太郎

明治四十二年五月十六日印刷
同　年五月二十日發行
婦人衛生雜誌第二百三十四號
（毎月一回二十日發行）

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍